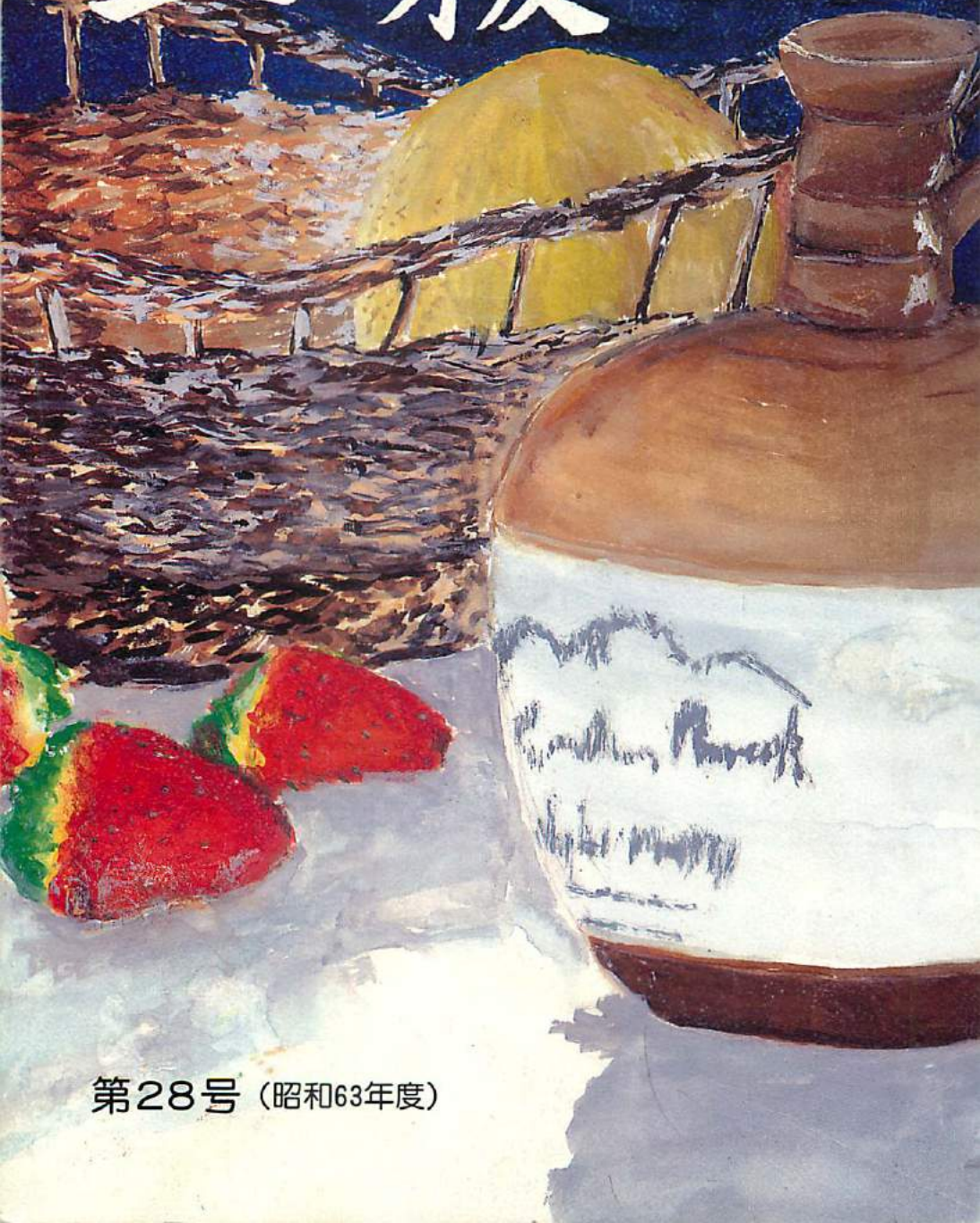


五稜



第28号 (昭和63年度)

お世話になった先生がた



63年度 五稜中学校教職員

平成へ



進路



入学式



中体連陸上



対面式



修学旅行



宿泊研



校内体育大会

昭和から



文 化 祭



校 内 球 技 大 会



校 外 学 習



国 際 交 流



校 内 マ ラ ソ ン



生 徒 会 立 会 演 説



授 業 風 景

(文化祭)



弁 論

(中体連各種)



サ ッ カ ー



劇



野 球



展 示



バスケットボール



吹 奏 楽



卓 球

(旅行・遠足)



修学旅行・川下り

(校内体育大会)



ハ ー ド ル



修学旅行・体験学習



応 援



宿泊研修……魚とり



網 引 き



校 内 学 習



マ ラ ソ ン

(授業風景)



創作ダンス (2年)

(生徒会)



生徒総会



習字 (1年)



週番活動



英語(外人講師を迎えて)



登校風景



給食 (1年)



総務局会議

目 次

◇ グラビア写真	
◇ 巻 頭 詩	
◇ 国際社会に生きる.....校長 高橋長一.....	1
身近なことから.....新生徒会長 佐藤充彦.....	2
一年を振り返って.....旧生徒会総務 斉藤裕久.....	3
生徒会一年の歩み.....	5
専門委員会.....	9
贈る言葉 三年関係の先生方	13
在校生より	
卒業生より	
部 活 動.....	19
卒業は明日との出会い 一人一言	30
受賞一覧.....	41
修学旅行記.....	43
学級紹介 一・二年各学級	48
宿泊研修.....	54
座 談 会	
五稜三訓、交通安全宣言を見直そう.....	56
文 苑.....	62
職員名簿.....	72
編集後記.....	73

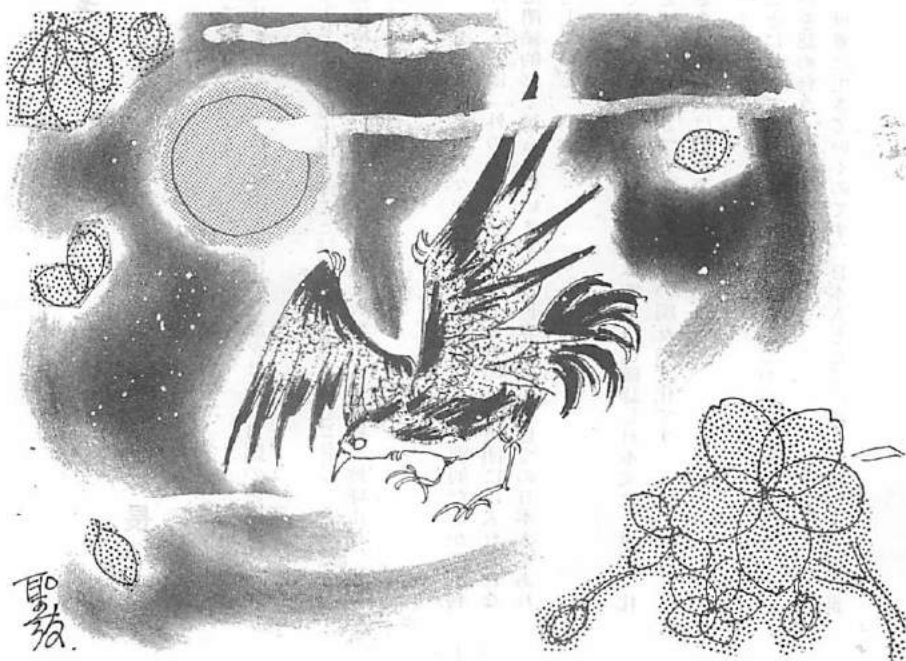
未来

三年 紺井かず紀

だから、未来は存在する。
例えばそれは一つの地球で
そこに今日があるのならば、
今日は明日に続く地球。
過去が、今日を造った地球ならば
明日は——未来は今日の造る地球。
幾つものそれを、僕たちは翔けていく。
月路を翔ける夢のように。

宇宙の間は 時に路を暗むけれども
碧く光る地球が そこにあるから。
今日描く碧色は たとえ今、
彩紙せても 未来を越えて輝きを放つ。

間が碧星に問いかける。
傷ついたその翼で
それでも 昨日より強く 明日より高く
翔びたとうというのか……と。
そして僕等は こう答える。
「だから、未来は存在する。」



即
張



国際化社会に生きる

校長 高橋 長一

最近では国際化とか国際的ということばが流行語としてよく使われるようになりました。国際化とは西欧の文化を真似したり、外国人のように振る舞うことではありません。それは外国と文化の交流をはかり自国の生活文化を多様化し文化価値を高めることに意義があるのです。

国際化ということばとともに国際人ということばもよくに耳にします。ライシャワー博士はこのことばにあたる英語は「Citizens of the world」(世界市民)であろうといっておりますが地球文化を共有し互いにその民族独特の文化を尊重し、継承して人類の共栄を願う地球市民、世界市民を国際人と呼ぶのは正しいと思います。このような意味で身近な例をあげてみたいと思います。

「世界市民としての日本人」

日本は戦後民主国家として世界文化の発展に寄与してきました。しかし、いまだに世界の人々から日本は閉鎖的だとか差別的だとかの批判を受けております。その身近な一つの例が「外人」ということばです。「外人」とは「外の人」という意味で日本の社会集団には入れられない人、集団の外の人だということです。そういうことばがある限り日本はまだ閉鎖的だと彼らはいいます。「世界市民」としての日本人であればそのような誤解を招かないように「ことば」にももっと気をつけるべきでしょう。

「日本人としてのアイデンティティ」

国際化とは日本人が日本人でなくなることでありません。世間のなかで日本人としての特殊性、主体性を自己確認し日本文化を世界文化のなかにきちんと位置づけ世界の他の国々の人に認めさせることです。例えば、「あいさつ」の仕方もその国々の文化です。

日本人の控え目な、静かな「あいさつ」の仕方に東洋的な文化の奥床しさを外国の人は魅力を感じるでしょう。

「文化の理解と交流」

国際化社会とはいろいろな民族で構成されている国々の文化を交流することによって理解を深め世界市民としての自覚を持った人たちの社会といえます。自分の国の社会の尺度で外の国を見ているわけではありません。お互いを認め合う心が大切です。

二十一世紀に生きるこれからのみなさんはますます国際化された日本に、世界に生きていくのです。日本人としての誇りを持つとともに世界の文化の発展に寄与できる人間になってほしいと思います。

身近なことから

僕達が生徒会役員になってから、もう二ヶ月が過ぎました。学校生活の中心は僕達一・二年生になり、その中でも生徒会役員の僕らが五稜中を支えていかなければなりません。

この五稜中には、先輩が残してくれた伝統があります。その中でも五稜三訓や交通安全宣言は、我々生徒の毎日の学校生活の中で、色々と役立っているのではないのでしょうか。ところが最近、五稜三訓や交通安全宣言をよく理解していない生徒が非常に多いと思います。五稜三訓を例に考えてみると、毎年のように五稜三訓の徹底が目標にあげられていますが、実際は反対に五稜三訓さえわからない人もいます。またわかっていても守れない人が多いと思います。五稜三訓の一番目に「にっこり挨拶、明るい一日」がありますが、これを実行している人はどれくらい、いるのでしょうか。毎日元気に挨拶をしている人もいますが、週番や先生方に声をかけられても、無視している人もいます。このような状態では学校全体が暗く沈みがちになり、悪影響がでます。挨拶は一日のはじまりというように挨拶をすることによって心が明るくなり、また明るく楽しい学校にするためにも生徒自身が自覚して、みんなで取り組めば挨拶が習慣化して、学校生活が生き生きしてきます。二番目の「進んで清掃、きれいな学校」についても同様の事が言えると思います。清掃にしても自分のためではなく人のためだと思ってるのでさぼったりするのです。自分が気持ちよく生活するためと思えば、自ら進んで清掃するでしょう。また、この事は交通安全宣言についても言え

生徒会長 佐藤 充彦

と思います。この学校では交通安全宣言を制定していますが、最近五稜中の生徒が何度か交通事故にあっています。これも自分の自覚がたりなく自分勝手だからだと思います。

このような身近な事から自主的に考え、生徒みんなで協力して取り組み、自然に素晴らしい学校になると思います。しかしこのような事を僕達生徒会だけではできません。僕達も努力していきますので、生徒の皆さんにも協力していただきたいと思っています。



63年度 後期生徒会役員

会長	副会長	書記	会計
佐藤 充彦	藤田 成一	栗山 大輔 石田己代子	三国 洋 酒井美由紀

—生徒会総務—

一年を振り返って

新しい発展を

会長 斉藤裕久

発展をめざして

副会長 酒井真紀

十月で任期も終わる三年間にわたる生徒会活動が終った。今、三年間を振り返るといろいろな出来事がありました。五校中の会長としては力不足な面々もありましたが、自分では良くやったつもりです。これもひとえに生徒の皆さんの協力があつたからこそできたものと思っています。ただ一つ心残りのことは、「五校三訓」などのように何か新しいものが作れなかったことです。何か新しい発展をとげたかったのですが、何にも出来ないまま卒業になってしまいました。だからこれからは、新総務と後輩諸君が協力し、より良い五校中学校をつくってほしいと思います。

一年を振り返って

副会長 菅原政志

ようやく任期が終わり、今改めて思い出してみると、全く大変な一年間でした。行事だけでもざっと振り返って見ると、新入生を迎える会、生徒総会、体育大会、勤労感謝の会に文化祭。特に体育大会と文化祭では、新しい試み（体育大会では運動会種目、文化祭ではシュプレヒコールとくす玉）がいりうるところに取り入れられ、大きな進歩を遂げたと思います。でも、やっぱり心残りなのは……生徒会だよりです。一年間を通して二部しか発行されなかったのは、問題があつたと思います。だから、新総務ではこんな事のないよう、また、どんな困難にもめげず、頑張つてほしいと思います。

書記の仕事をつり返って

書記 厚谷理香

この一年間をとおして、さまざまな経験をし、多くのことを学びました。最初の頃は、今までの型にはまっただけでしたが、文化祭の開会式を今までもよりもっとと盛りあげようと思つていました。去年より今年、今年より来年……と限りなく発展してはほしい、またそのためには、勇気を持って行動しなくてはなりません。任期の間は「一年ってなんて長いんだろう」と思いましたが、終わってしまった今は、とても短く感じます。これからも一日一日を大切に、今まで得た教訓を生かし、生徒会の、そして自分自身の発展にも尽くしていきたいです。つらいこともありましたが充実した一年でした。

私が書記になってから、早くも一年が過ぎました。この一年の月日の中で、私は、立会演説の時に言つたことを、何一つ実行できませんでした。私がやつた仕事といえば、全校集会などの司会や行事の前の準備を手伝つたことぐらいです。しかし、私は、仕事が少なかったけれど、数多くのことを学んだと思います。

苦労をしたこともありましたが、中でも、行事をやる前の準備や終わった後の始末をしたことが強く印象に残っています。けれども、行事が終わった後、必ず私の心は充実感で満たされていました。やはり、書記の仕事をしてよかったと思います。

自分の目標にむかって

書記 高橋 秀司

十月に任期が終わってから二カ月がたちテストも終わり「ホッ」と息をつき、前期生徒会書記として一年間をふり返るとあの時こうしておけばよかった、もつと何かをすべきだったなどほとんど後悔と自分の実力の無さになさげなく思いますが、そんな自分でも何とか続けてくることができたのは頼りになる会長や副会長など生徒会の仲間達の助けと、各専門委員や全校生徒のみなさんの協力のおかげだと思えます。最後になりましたが、これからは一・二年生が活躍する番です。これからは全校生徒で協力し合いこの五稜中学校をもつとすばらしい学校にして下さい。

一年間という年月を経て

会計 石田 己代子

私は、生徒会会計という重要な役目をもった仕事についています。かといって、私のやったものといえば、生徒会誌『五稜』の編集、いろいろな行事の運営など、ごくありふれたものでしかありません。しかし、それも、ほんの一部、上辺でしかないのです。そう考えてみると、私がやってきたことの小ささを思い知らされます。ふり返ってみると、反省点ばかりが目につく状態です。しかし、その反省から、得ることができたことをいかしながら新たな課題を持って、同じことをくり返すことがないよう、今まで、できなかった分、教えられた分、がんばりたいと思います。

一年をふり返って

会計 山形 重雄

今まで生徒会役員をやってきて一生懸命がんばってきたことは、「一年間の行事一つ一つを充実させ生徒のみなさんに楽しんでもらう。」

ということでした。中でも文化祭は、開会式がさびしく、ぱっとしていなかったが、くす玉をふらさげたり、シュプレヒコールをしたりして盛りあげました。この成果が実り、文化祭は今まで以上にぎやかになりました。

後期生徒会へ望むことは、僕達以上に実行力のある生徒会にしてほしいと思います。



63年度 前期生徒会役員

会長	副会長	書記	会計
斉藤 裕久	菅原 政志	高橋 秀司	山形 重雄
	酒井 真紀	厚谷 理香	石田 己代子

63年度 生徒会 一年間の歩み

月日の経過とはとても早いもので、あっという間に一年が過ぎてしまいました。みなさんにとってこの一年はどのような年だったでしょうか。明るく楽しい年、それとも苦しく辛い年だったのでしょうか。生徒会としてもこの一年さまざまな行事を行ってきました。ここで一年間の反省も兼ねてこの一年を振り返ってみようと思います。

【四月】

6日 入学式・第一学期始業式

新一年生にとっては初めての中学校で、緊張の連続(?)だったのではないのでしょうか。五稜中の第一印象はどうだったかな?

8日 新入生を迎える会

初めて全学年がそろって行った行事でした。生徒会の組織、部活動の紹介がありました。

19日 各専門委員会、活動スタート

どの委員会も活気があふれていました。

【五月】

12日 修学旅行出発

希望と不安を胸に初の青函トンネルを通り旅立ったが、あいにくの雨模様、ちよつと残念。しかし三泊四日の旅は三年生を一回りも二回りも大きくした(?)。きっといつまでも心の中に残るすばらしい旅行だったでしょう。



【六月】

2日 第二十八回校内体育大会

今年は運動会が無く、体育大会に運動会の団体種目がお混ぜられ、より一層盛り上がりしました。

11日 第十一回校内マラソン大会

晴天に恵まれ、みんな一生懸命走り抜きました。

14日 生徒総会

各学級から多くの質問が出て、内容的にとっても充実した総会でした。また、立林君・中井君の名議長ぶりで盛り上がりしました。

16日 中体連陸上競技会壮行式・応援

五稜中の代表として選ばれた選手を熱い応援で送り出しました。



【七月】

7日 中体連総合競技会壮行式・応援

応援団による盛大な応援の中、各部選手の紹介、どの顔も生き生きしてましたね。毎日毎日練習を続けてきたみなさん、御苦労様でした。

23日 第一期終業式

ついにやってきました夏休み、最後の三日で宿題を終わらせた人も多いことでしょう。

【八月】

18日 第二学期始業式

さて、楽しかった夏休みも終わり、一年間で最も過酷で長い二学期が始まりました。

【九月】

2日 文化祭実行委員会発足と

各学級、学級新聞・弁論・ポスターなどの係が決定。また吹奏楽・合唱・演劇の練習に熱が入り始め、各学級からも合唱の声がか聞こえ始めました。

27日 後期生徒会役員立会演説会

立候補者は自分のやりたい事をはっきりと述べ、当選した生徒会役員の方々は、とても期待のできる人ばかりです。

30日 校内弁論大会

いろいろな人の主張が聞け、とても素晴らしい内容でした。



【十月】

7・8日 文化祭「躍進」

第一日目：開会式では、くす玉やシュプレヒコール等、新しいイベントが目白押しでした。

第二日目：先生方の熱唱が体育館に響き、みんなをしびれさせました。毎日放課後遅くまで残って準備したかいがあって、素晴らしい二日間でした。



12日 《生徒会協議会総会》（於・大川中）

臨時に大川中で行わなれ、長期休業中の心得の見直しについて各校の役員が活動に意見が交わされました。これからも、どんな校則について見直していきたいものです。

17日 生徒会役員任命式

田総務のみなさん、本当に御苦労様でした。これから一年間、新役員一同、至らないながらも一生懸命やっていこうと思います。すのでよろしくお願いします。

18日 後期各専門委員会活動スタート



【十一月】

10日 生徒会誌「五稜」編集委員会発足

二、三年生各学級一名と新旧生徒会役員の計二十二名、顧問は上田先生、高橋先生で、原稿の集約は十二月十五日に決定しました。

22日 勤労感謝の集い

日頃お世話になっておるおじさん、おばさんに感謝する会です。赤いカーネーションとささやかなプレゼントで感謝の気持ちをあらわしました。これからも元気に頑張ってほしいと思います。

【十二月】

7・8・9日 生徒会歳末募金活動

今年から新しい募金方法となりましたが、みなさんのおかげで約五万円を上回る募金が集まりました。本当にご協力どうもありがとうございました。

24日 第二学期終業式

一年間で最も過酷で長い二学期が終わりました。

【一月】

9日 「中学生と父母、先生の語る会」

高橋先生の引率のもと、会長の佐藤君と副会長藤田君が出席。各校の代表からすばらしい実践報告や意見交換があり、有意義な会でした。

19日 三学期始業式

新しい年にもなり、正月気分も抜け切らない人が多い様ですがこの三学期は一年の締めくくりです。気を引き締めていきましょう。

【三月】

7日 中体連スキー大会

我が校からも名スキーヤーが出席、結果はともあれ御苦労様でした。

【三月】

11日 卒業生を送る会

三年生は最後の行事。公立の受験も終え、どんな会になるかととても楽しみです。

15日 卒業式

ついに三年生は卒業。これで五稜中学校とさよならと思うと悲しくなりますね。

24日 第三学期修了式

長い一年が終わりました。この一年間で学んだことを来年に役立て自己の向上をはかってもらいたいと思います。

—専門委員会—

活動報告

もつと積極的に

代議員会

代議委員会は、生徒総会に次ぐ議決機関として、クラス全体の代表者を集め、月一回の委員会を開き、いろいろな議題を討議する所です。ですから、ここに集まる人達は、代表者としての自覚をしっかりと持たなければなりません。そして、積極的に議題と取り組まなければ、委員会自体が成り立たなくなりま

す。ですが、私としては、なんとなく盛り上がり欠けていたような気がします。その原因としては、決議された事をただクラスに伝えるだけの「伝達委員」が居たように思えたからです。そして、その結果として、討議の盛りあがり欠けてしまった、という風に感じたのです。

(小林 記)

積極的な活動を

学習委員会

今年の学習委員会の活動を振り返って、反省点や問題点をあげてみようと思います。まず、朝学習の時間のことですが、学級によつては、一部の人が一生懸命に勉強し、他の生徒は遊んでいるという所もあるようです。これは改善しなくてはなりません。

次に自習時間やチャイム席の指導ですが、これもあまり積極的ではありませんでした。特にチャイム席は、二・三年生になると守られていないことが多いのです。委員は、それを委員会に報告するだけでなく、何らかの対策を立てるべきだと思います。

悪い事はばかり書いてきましたが、もちろん良い事もあります。教科連絡は各学級できちんと行っていたし、朝学習の問題作成は、学年ごとに協力しました。これらの点は、よくやってくれました。

今後の学習委員会では、よりよい学習環境をつくるため、今まで以上に頑張つてほしいと思います。

(合田 記)

生活委員会の

活動を終えて

生活委員会

生活委員になったのは、一年の時と三年の時と二回である。もちろん、委員長になったのは、初めてである。

まず、司会が苦手な私が、委員長になってしまい、議題を進めるのが下手なものだから、発音が少ない。もう少し積極的に発言して私を助けて欲しかった。

委員の具体的な仕事の例としては、週番の活動があるが、これは集まりが多少悪いし、朝の挨拶も班によって元気がなかったような気がする。

よくやってくれたのは、文化祭でのウェイトー、ウェイトレスだと思う。みんな不慣れながらも、楽しくやっていただった。手伝ってくれた人もありがとう。

今後の生活委員会では、みんなのもっているすばらしいものを引き出し、自覚を持った、積極的な委員会にして未来の五稜中をすばらしいものにしてほしいと思う。

(山口 記)

保体委員活動を終えて

保健体育委員会

一見、簡単そうに見える前期の保体委員会活動は、大変忙しいものでした。保体委員の主な仕事として、体育の連絡、清潔検査がありました。

体育関係の行事として、体育大会、マラソン大会、校外学習、球技大会、それぞれ、重大な仕事を、まかせられました。一つ一つが私達の思い出として、残る行事でした。

この保体委員の仕事を終えて、私達は、知らず知らずのうち、たくさんのかんことを学んだと思います。

どの仕事も、大変だったけれど、とてもやりがいがあり、楽しかった仕事ばかりでした。今後、保体委員になる生徒は、今まで以上に、山本先生、古館先生、大阪先生、大変お世話になりました。

(村井 記)

“毎日確実に……”

給食委員会

今年の給食委員の活動は、目立つような仕事は、ありませんでした。しかし委員のみなさんは、クラスの人々が気づかないようなところで毎日、毎日給食委員としての仕事を果たしてきました。その一つは、給食台の台ふきのことです。「台ふき」と一言で言ってしまうと、簡単な仕事のように聞こえますが……。給食時間が終わったあとの給食台は、いつも「温食やおかず」などがたくさんちらばっていて、初めは、どう処理していいのか戸惑ってしまいくらいです。一生懸命力を入れてふいても、よごれがおちなかったりする時もあります。しかし私達は、クラスの人々が少しでも、気持ち良く、衛生的に、給食時間を過ごせるよう毎日のつらい仕事がんばってきました。

今後、給食委員になる人も、今までの給食委員の人にまけないようがんばってください。

(豊 記)

“住みよい学校” を作るために

整美委員会

我々、整美委員は、五稜三訓の一つである「進んで清掃、きれいな学校」を徹底すべく、各クラスの清掃点検に始まり、校外清掃にいたるまで数々の活動をしてきました。全体的に見て目立つ大きな活動はあまり多くはないものの、各クラス委員ごとに行う「朝のさわやか清掃（玄関、廊下などの掃除）」、「モップがけ」、それに前にものべた、「点検活動」等、たくさんの仕事があるのです。影では整美委員を労働委員と言う（？）人もいますが、そこはさすが整美委員、活動はなかなかだったと言えます。

去年より、委員による点検活動、清掃ボスターの製作、整美だよりの発行等、多くの仕事をしながらばってきた今年の整美委員ですが、年間活動目標でもある「公共物を大切に、環境の美化につとめる」を達成するために、各クラスごとの委員へみなさんの協力がより一層必要です。「住みよい学校」を作るために、委員ともどもがんばって下さい。

（浅倉 記）

文化の仕事の実状

文化委員会

文化委員とは、非常に地味な仕事である。生活委員や学習委員、代議員のようなハテな仕事はないに等しい。あるとしたら、新聞発行ぐらいであろう。文化祭は文化委員の仕事だと思ふ人も多いと思う。しかし、文化祭は「文化祭実行委員会」と言う組織が中心となり、全校生徒の手によって行なわれる仕事で、文化委員だけの仕事ではないのである。

さて、僕は前期の委員だったので、後期の仕事内容は知らないが、知っている限りの仕事を紹介しよう。まず、新聞の発行は前期は思うようにうまくはいかなかった。それから掲示物の張り変えなどは文化の仕事の大半を占めている仕事で、とても目立たないのだが、とても大事な仕事である。

とにかく、文化の仕事は目立たない物が多いが、とても大切な仕事が多いのだ。

（吉田 記）

図書館利用の現状

図書委員会

皆さんは図書館について、どのように考えているのでしょうか。図書委員として観察していると、三種類の違った考えを持つ人がいることに気づきます。その一つは、図書館本来の意味を正しく理解し、本を読んだり借りたりするために図書館に来る人。二つ目は、どう勘違いしたのか、図書館を遊び場だと思ひ込み遊びに来る人。そして最後に、図書館とはまじめ人間が行くところと、かつてに決めてしまい、入学以来一度も図書館に来たことがない、という人です。昼休みも前半は、図書館を正しく利用してくれる人達が来るので、快く仕事が出来ましたが、後半になると、騒ぐ人が多くなり注意される人もでてきました。放課後には、図書館に誰も来ない日さえありました。……と、これが図書館利用の現状です。図書委員一同としては、この現状をどうにか改善し、明るく楽しく、そして静かな図書館にしようと頑張っています。ですから皆さんも、今後の図書館の運営に協力して下さい。

（渡辺 記）

今までをふり返って

放送委員会

放送局員というのは、他の生徒から見れば、何かと面白そうな事はかりしているという「レッテル」があるようだ。

別に放送局員は、リクエストを受けて、ただそれを流しているというのが仕事なのではない。

集会の準備をしたり、他にも、いろいろと仕事があるけども、ここでは説明しない。

放送局員（三年生）の人数は、五人いる。

二年生の局員が一人もいないので、何とか入ってほしいと思う。

一年生の局員が、入ってきたので、仕事を教えないといけない。

任期は、いつ切れるか、わからないけど、一つ一つの仕事をきちんとこなしていきたいと思う。

残り少ない期間を有効に、局員みんなで力を合わせて、やっていきたいと思う。

（堀江 記）

縁の下の力持ち！

応援団

我々応援団の団員は三十人です。クラスの中から必ず二人づつ選ばなければならないので三十人という人数が集まったのです。

昨年の応援団の応援が立派だったから、我々も先輩達に負けないように練習にはげんできました。

応援団の練習で一番大切なことは、何といっても「大声」を出すことだ。そのためにグラウンドに出て自分の名前を大声で言う練習をしていたが、これはみんなが窓から顔を出して見ているのでけっこうはかしいものがあった。そして今年の応援団は昨年にはなかった「ユニホーム」を着て応援することになった。

いよいよ応援当日練習の成果が出てみんな声がよく出ていた。我々三年生には最後だから悔いの残らない応援ができた。

これからの応援団の活動は後輩達に期待しています。

（叶野 記）





よさを生かし 謙虚さをもつて

教頭 多田敏夫先生

卒業生の皆さん、中学校三か年間、学業に運動にすばらしい成果をあげていただき、本校の伝統と校風を更に高め、本校の歴史に輝かしい一ページを書き加えてくれました。人の一生は木に年輪のある如く、竹に節のあるように、いくつかの節目があります。中学校生活は長い人生の中で大切な節目の一つです。すぎ去った三年間の生活を静かに省みて、これからの進路や人間のあり方に自覚と決意を新たにしていることと存じます。

私は次の二つのことを皆さんにおくります。人生の指針にしてほしいと思います。

第一は、一人一人の人間は顔や表情が異なるように他人にはないそれぞれの「よさ」（特性・個性）をもっているはずで、その「よさ」をこれからの人生にも大いに伸ばしてほしいと思います。そのことによって、自主的な生活態度や、やる気生まれ、生きる喜びが湧いてくるものと考えます。

第二は、人間は社会的動物だといわれています。人間という字のごとく、一人では生活できない。他人とのかかわりの中で生きるものです。「汝の欲するところを他人に与えよ」ということばがあります。それは深い思いやりの気持ちを他人に示すことを教えたものです。これらのことを指針にして人生という旅に出発して下さい。私は在校生と五稜中学校が卒業生の皆さんにとって心の故郷になることができるように努力するつもりです。どうぞ、学校に遊びに来てください。



本来の姿を失わないで

A組担任 大坂邦子先生

卒業おめでとうございます。

あなた達とのつきあいはとても短いものでしたが、それなりにさまざまな思いが浮んできます。

その中で特に感じるのは、身体を動かすことをおっくうがったり、楽な事を選ぶ傾向が強くなってきているという事です。

多くの制約の中でしか生活せざるを得ない社会環境のせいでしょうか。人間は本来運動に対する欲求は非常に大きいはずですが、身体活動の喜びを知り若者らしいのびのびした本来の姿になってほしいと思います。そして健康で明るくねばり強い意志と行動力を持った人間になっていくことを願っています。



卒業をむかえて

B組担任 吉田美奈子先生

「卒業」。私にとってこの言葉は、思い出をたどると友がいて、何ともいえない寂しさを感じますが、それよりも、一つの課程を終えたという充実感、ひとつおとなになったんだという満足感が得られる言葉のような気がします。

あなた方にとっての「卒業」はどうでしょう。寂しさ・満足感・解放感・それともこれからのことを考えると不安。

それぞれに異なるでしょうが、私はあなた方に、一つの大きなことを終えたという自信をもち、それをステップにしてこれからの苦しい道を進んでほしいと思います。頑張ってください。

最後に……。三年間いろいろな思い出ができました。ありがとう。



夢を失わずに

C組担任 斉藤克巳先生

世紀の大事業といわれた青函トンネルが開通してまもなく、私達は、北海道と本州が陸続きであることを実感する修学旅行を体験したことになる。

トンネルが完成するまでは、(そんな夢のような話が……)と思っただけで、テレビだってはじめる夢のような話だった。その夢を実現させるために地道に努力を続けた人々がいたのである。

今度は君達がそれぞれの夢の実現のために努力していくことになる。何事にも挑戦する意欲を失わないで、あきらめることなく、自らを生かす道を探究していこう。



仕合わせは

D組担任 山岸岩夫先生

「雪に色づいた「ななかまど」の実が白雪に映えている。こんな光景は、函館市内の街路樹の姿としても、たくさん見かける。

我家の庭にも、この木が三本、場所を違えて植えてある。十数年たった現在、それぞれが個性豊かな枝ぶりで四季折々の風情を漂わせている。前庭にある一本は、過去最高の実を結び、鮮やかな冬の彩りを期待していた。が、十一月月上旬、早朝飛来する群鳥についばまれ、三日間程で、全てが失われてしまった。こんなにもことに枝のみになってしまうことは、かつてなかったことである。

どんな自然の力に支配された巡り合わせなのであろうか。本年は山野の実りの収穫が少ないと聞く。私達の仕合わせはどうなのか。



逆境に負けるな

E組担任 辰宮 稔先生

卒業おめでとう。先生は五校に来て二年、君達は一年先輩だ。

雨の日も嵐の日も君達の笑顔に助けられ、今日を迎えることができた。人生は失敗はつきもの、その道の達人とは、他のだれよりも失敗を経験した人の事。何事にも興味を持ち、目標を決めたら、急がなくなっている、転んだっていい、人に抜かされたっていいじゃないか。自分の力を信じ、力の続くかぎり、歯を食いしばって走れ、ひたすら走れ、次の電柱をめざして走れ、君達皆マラソンランナー。卒業とは英語で「始まり」という意味がある。人生の節目、節目を電柱にたとえて、更に磨きをかけていこう。どんな逆境にもへこたれず、一步一步前進しよう。廿一世紀は君達の時代。



大地に根を

技術科担当 佐々木一夫先生

人が一生を生き抜くのは、並大抵のことではない。

それは、猛り狂う大海に乗り出した帆船のようなもの。帆柱を折られることもある。舵もきかなくなることもある。座礁することもある。さまざまな困難が待ちうけているものだ。

しかし、その苦渋に耐え、困難を乗り切った時、人はそこに光明を見出す。たとえようもない美しい灯を……。

それが人生の喜びである。

自分の歩む道をみうしなわず一步一步大地をふみしめながら、人生の喜びをみい出してほしい。



目に見えないものはおそろしい

理科担当 大野哲朗先生

わたしたちは五官によって物の存在を知ります。しかし、五官では知り得ないものも多くあります。ふえ続ける二酸化炭素、フロンガス、有害化学物質、核放射線等々。これ等は直接見ることはできませんが、今人類の存在をおびやかすまでに至っています。そうして、今後どうやってその害をなくしていくかの根本的対策は何一つないのです。でも、もっとおそろしい見えないものは「人の心、意志」だと思います。なぜなら、現代の危機を生み出したのは、物質的豊かさを究極まで求めた「心の欲望」にあるからです。これからはその「心の使い方」が大切にされる時代となるでしょう。どうか皆さん、新しく、よい時代を築く旗手になって下さい。



私の願い

社会科担当 増川四郎先生

- ◎こんな人になって欲しい
- ・お金持ちでなくてもいい
- ・名誉や地位がなくてもいい
- ・大臣にならなくても
- ・社長にならなくても
- ・社会に必要な人になつてくれれば
- ・それが一番よいと思う
- ・平和な、楽しい
- ・家庭の一員であつて欲しい。





手づくり

家庭科担当 橋詰 尤子 先生

「手づくり」私はこのことばのひびきがとても好きです。「手づくりのケーキ、手編みのセーター、マフラー」など。物は街にあふれ、物物的には大へん豊かです。機械にたよった既製品が私達のまわりにいっぱい出回っているからです。自分の手、足、目、などを使わなくなりました。確かに作らなくても生活が出来、能率的でとても楽だからです。だから、時と場合によつてはそれを使つた方がよいこともありましよう。でも、すべてがそうならどうなるでしょう。最近よく「物は豊かになつたけど、その反面心が貧しくなつた」と耳にします。「手づくり」には人の心の暖かさを感じます。「心の豊かさ」もこのあたりにもあるように私には思われるのです。



夢にむかつて

体育科担当 山本 忠行 先生

諸君、一年間の付き合いであつたが、いろいろありがとう。素直な生徒が多く、それなりに根性をのぞかせるヤツもいて、なかなか楽しい毎日であつた。ただ、私の力不足で、未だ磨かれざる能力に十分な刺激を与えなかつたことをお詫びします。私はこれからも見聞を広め、肉体的トレーニングに励むつもりです。私は一日も早く諸君に追い越される目を楽しみに（追い越した人もいますね）。最後に、私の子供のころからの夢のひとつは、自己の身体を思うがままにコントロールし、いつでも大空に舞いあがることでした。どうか諸君も、宇宙の平和と人類の福祉のために大いに学問をし、現実可能な大きな夢に向かって前進してください。



思いやりを大切に

養護担当 斉藤 直美 先生

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。この三年間はとても早く過ぎたのではないでしょう。みなさんは、二年間一緒にすごしました。宿泊研修・修学旅行と、楽しい思い出もたくさんあります。保健室の中では、みなさんの暖かい心、また、具合の悪い友だちを気遣うやさしい心も見ることができました。現代は、相手を思いやる気持ちや、相手の立場になって考えるという事をできない人が大変多くなつてきているようです。みなさんの今持っている「思いやりの気持ち」をいつまでも、大切に持ち続けてほしいと思います。

幼い日

おさない日は

水が もの言ふ日

木が そだてば

そだつひびきが きこゆる日

八木 重吉による

多くの経験を大切に

二年 中嶋潤子

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

私達二年生は、三年生のみなさんと、二年間という中学校生活の半分以上を、同じ中学校で過ごしました。その間、私達二年生は、三年生のみなさんに迷惑をかけたことが、たくさんあったと思います。入学式、マラソン大会、体育大会、そして文化祭、その他、いろいろな行事が行われるたび、一生懸命に下級生のお世話をしてくれたり、行事を成功させるために、頑張って下さって、本当にありがとうございました。

部活動などでは、いろいろと迷惑をかけ、怒られたことも少しはありましたが、とてもいい思い出になりました。

行事、部活動、委員会などの外は、あまり接触はありませんでしたが、私達はそれぞれに、先輩達に思い出をもっています。

三年生のみなさんにとっても、この五稜中学校で過ごした、三年間の思い出は、たくさんあると思います。楽しかったこと、悲しかったこと。一人一人がそれぞれに、いろいろな思いを胸に秘めていると思います。でも、どんなに悲しい思い出でも、一生忘れないで下さい。たった一度しか経験できない思い出ですから。

これから三年生のみなさんは、自分の道をそれぞれに歩いて行くと思いますが、今までの中学校生活の中でつくったたくさんの大切なものを、思い出と共に、大人への階段の第一歩として、踏みしめながら、前進して下さい。

よき伝統に見習う

一年 吉田 聡

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

ぼくたち一年生は、入学して以来いろいろな面での三年生をみてきました。いろいろな行事の時、部活動の時、そして毎日の学校生活の中で。その中の三年生というものは、いつも光り輝いていました。中学校最学年という責任を果たし、この五稜中学校の伝統を守りながら、みんなのリーダーとして、ぼくたち一・二年生を導き、育ててくれたのです。

このような皆さんの三年生の活動の中でも、特に印象が強いのは、部活動、そして文化祭です。

部活動については、多くの所属しているバスケット部の三年生は、みんなよい人達ばかりでした。部に入ってもまもない、バスケットのバの字も知らないような未熟なぼくたちを、一生懸命、指導してくれ、さまざまな技術を教えてくれました。今のぼくたちがあるのはあの先輩たちのおかげなんだと、心から感謝しています。

文化祭にはとても感心しました。学年館、合唱、その他さまざまな催しものなど、ぼくたちにはとてもできないようなことを、何から何までやってくれました。今年の文化祭が成功したのも、この三年生がたの頑張りのおかげだと思います。

さて、この五稜中学校にもまだたくさんさんの問題をかかえています。ぼくたち一・二年生が解決していかなければならない課題として、三年生がぼくたちに与えた試練だと思って頑張りたいと思います。

五稜三訓の実践を

三年 斉藤政孝

やっと三年間の義務教育が終ろうとしている。三年生はこれからそれぞれが選んだ道を歩んでいくわけだが、在校生にこれだけは伝統として受けついでほしいというものがある。

それは「五稜三訓」のことだ。

一つ目の「につこりあいさつ 明るい一日」は人間にとつての一番基本的な事だと思う。先生とあいさつをした時、朝ならすがすがしい気分で教室に入り、下校時には学校での疲れをふり払うように元気に声を出し礼ができると思う。例えば「先生、おはようございます」「おはよう。眠そうな顔だなあ、気を引きしめていけ」と言われると目がぱちり開き、眠気がさめた気分になるのである。

二つ目の「進んで清掃 きれいな学校」は実行すると心がさわやかになると思う。ぼくは三年生の時、初めて整美委員になり実感したのだが、朝の玄関掃除の時などに（三年生は職員玄関掃除）先生とコミュニケーションがとれるという事だ。例えば玄関掃除をしていて先生が入ってくると、「おはよう、いやあ外は雨でべちゃべちゃだよ。こんなに玄関をきれいにしてくれたのに泥できたなくしちゃって悪いね」と掃除した事で少しでも話ができるのである。

最後の「自主的判断 みんなで協力」は社会生活に欠かせない事だ。なぜなら人間は助けあわなくては生きてはいけない。自我を確立することによって一人前となり社会生活を支えていくからだ。

これらの事は人生の基本。難しい事だが完璧を期して実行しよう。

苦勞は買つてでも

三年 坂口菊恵

「若い時の苦勞は買つてでもせよ」よく聞く言葉ですが、割といろいろな意味にとれる言葉ではないでしょうか。苦勞というのは人それなりにいやでたくさんあるものでしょう。しかし若い時にこの苦しみとの対応法を身につけず大人になるならば、やはり進歩なく、そのままの状態が続くでしょうか。苦しみを軽減しようとして作られたモノは、どこかに必ず欠陥があり、ツケが必ずどこかにまわってくるものです。

苦しみを転嫁する技術や道具、思想や宗教までを作りあげ、それを文明と呼んで成長させてきた人類は、それによって自己の能力を失ってきました。人間がこのようにして作ってきたモノに完全だということとはなく、自らの生活環境や精神をも破壊してきてとどまりません。今の自分の生活を愛し、一生懸命に生き、その苦しみから学び、成長してゆくという文明とは、完全に矛先を変えてしまっているのではないのでしょうか。

今の自分の生活環境のすべてをこの上なく幸せに思っている人は少ないでしょう。しかし苦しくてあたりまえなのです、生きています。以上は、不可能だということ、条件が悪いということは理由になりません。今の社会では、死にもの狂いで何かしなければ、生きてゆけないということはあります。しかしよりよく生きるためには情眼を貧乏にしていはいけません。学校という場があるので多くの経験的に情報・知識を求め、感性を磨き、苦勞でもなんでも多くの経験をして下さい。新しい喜びが見い出せることでしょう。

部 活 動



1 年 間 の 活 動 報 告



郷土研究	写真	合唱	演劇	吹奏楽	スキー	水泳	ソフトボール	柔道	卓球	バレーボール	バスケットボール	テニス	サッカー	野球
大野 哲朗 先生	辰宮 稔 先生	田村 順子 先生	上田 陽子 先生	吉田美奈子 先生	古館 勉 先生	山本 忠行 先生	増川 四郎 先生	山本 忠行 先生	高橋 一也 先生	大坂 邦子 先生	古館 勉 先生	三河 和宏 先生	松山 元彦 先生	吉田 孜 先生

お世話くださった先生方



限りなき前進

卓球部(男子)

今年の卓球部は、去年に引き続き旭中学校を一昨年まで五年連続函館市優勝、一昨年、二昨年と二年連続北海道優勝させた高橋先生が顧問をしています。

その高橋先生の指導でほとんど毎日、休みの日でも練習をしました。体育館が使えない日でも二間廊下でやったり大会が近づくと早朝練習をしたりしてとにかく勝つために少しでも練習をしようと懸命に努力しました。

しかし厳しい練習のせいで、卓球部をやめる人たちが多かったがその厳しい中をのりこえてこそ強くなると信じ黙々と練習を続けました。

今年は、レギュラー八人のうち二年生が七人という二年生主体のチームでまだ経験不足で大会などではあまりよい成績は残せませんでした。五稜中男子卓球部は、実力はあるのだが一歩外にでると特に二年生が経験不足のせいか、突然弱くなり練習試合や大会ではなんでもない選手やチームに負けたりするのが最大の弱点で高橋先生もあきれほでした。

そんなことではいけないとほくたちは思い、中体連では絶対に勝とうと中体連にすべてをかけました。

中体連では、団体戦は予選リーグ、赤川中学校、新川中学校と対戦し、両校とも三〇のストレートで勝ち決勝トーナメントに進みました。決勝トーナメントでは、準決勝で対戦相手の戸倉中学校におしくも二―三で負けてしまい三位、個人戦では二年の永浜君がベスト8に入るといふ結果に終わりました。

後輩のみなさん、今回は団体戦第三位という結果に終わったがこのような結果で満足しないしてほしい。全道大会、全国大会出場など大きな目標をもち、その実現にキャプテン中心に一生懸命頑張ってください。

最後に、下手な三年生に協力してくれた後輩諸君、わかりやすく指導してくれた高橋先生、本当にありがとうございました。

(石垣・記)

準 決 勝

卓 球 部 (女 子)

去年の中部連での女子卓球部の成績は団体戦で準優勝でした。こもんの高橋先生がこの五稜中学校に来てから女子の成績はよい方だったと思いました。今になってから思うと優勝した時の気分とは違うけれど今までの練習の成果という事でいいは残っています。うれしかったです。

それまでの練習という大変厳しいものでした。朝練習、放課後の練習と毎日先生がつき、私達はその日一日が卓球に初まり卓球でおわるといふうでした。部員も前の三年生の先輩が引退してから一年生が四人しかなくて団体戦のチームが作れませんでした。そして私達が二年生になってからあつという間に七月の中部連がやって来ました。

試合の日はみんな気が張っていてとても真剣でした。他の学校での強い選手やチームをマークし、チェックしたり、試合を見に行ってみました。そして五稜中の女子は団体戦の子選リーグで大川中と本通中に勝ち、強敵の深堀中と決勝戦をやりました。試合はものすごい応援で盛り上がりしました。周りに人が集まってきて注目しています。試合をしている私達はともきんちようしました。それから結果は三対二で深堀中が勝ち、残念ながら準優勝という成績でしたが、あの時のうれしさとくやしさは今でも覚えています。そして練習が大事だということがよくわかりました。

今も卓球部は毎日練習にはげんでいます。指導してくださる高橋先生も毎日いそがしい中を練習となると一生懸命に指導してくれました。私達がこんなに強くなり、技術が向上したのも高橋先生のおかげだと思います。また今年の中部連へ向けてがんばって練習していこうと思います。今年こそ優勝したいです。

(掛端 記)



野球部・勝利の道へ：

野球部

僕達の野球部、長かったようで短かったこの三年間、いろいろな思い出があった。まずは、練習がきつかったけど、とても、楽しかったこと。試合で勝ったとき、何よりもうれしかったこと。期待していた新人戦が、一回戦で負けてしまったこと。放課後おそくまで苦しい練習を続けてきたのに試合では、成果が発揮できず、優勝まで手が届かなかったこと、くやしかったこと。みんな泣いても泣ききれない涙を流したこと……。

数えきれないほどの、さまざまな思い出は、僕達にとって大切なものだ。こんなに苦しくて練習してきたけど、まだまだ続けたい気持ち、いっぱいだ。だから、後輩たちに僕達の分と、指導してきた分、そして勝利への道に歩んでいてほしい。

吉田先生、今まで本当にありがとうございました。

これからも、頑張ってください。僕達、部活をどうして得たことを、いろんな面で生かそうと思います。そして、我が後輩、優勝にむかって、ファイトを燃やして頑張ってください！！

(大西 記)



できなかった中体連優勝

サッカー部

ぼくたちサッカー部は、三年間いろいろとがんばってきました。先輩たちがぬけた後でも、熱心に練習しました。試合の方は、新人戦3回戦まで進出、練習試合などでは、勝ったり負けたりでしたが、一番の目標は、中体連・優勝でした。

7月12日、中体連が初まり、一回戦は的中と対戦し、前半は○対○、後半は2対1と負けていましたが、終了直前に1点とり、同点のままで終り、PK戦で3対0で勝ちました。みんなあまり緊張していなかったみたいで、二回戦は、亀田中と対戦、3対1という得点で勝ち、この調子でいけば、優勝できると思いました。

大会三日目最終日、準々決勝の相手は赤川中でした。かなり苦戦した末、前半、後半、延長前半、延長後半0対0で終了し、PK戦3対1でおしくも負けてしまい、優勝できず、総合第三位で、3年間のサッカー部活動は終わりました。

来年こそは、後輩たちに、「優勝」という夢を、ぜひ実現してほしいと思う。

(福原 記)



今、思う……。

テニス部(男子)

今、考えてみると長くて短かい三年間だと思っています。

もう一度一年生からやりなおしたいと思っている人もいると思うし、自分もそう思います。

もし、一年生にもどれたらテニス部で一年生からやりなおしたいと思います。

二年の時、入った部活だけど、ものたりなかったと思うし、まだまだ自分でも、がんばっておきたかったです。

男子テニス部は、人数が少ないため練習も女子とまじってやっています。

今年は男子部員もふえたようだし、練習量も増していけば、今ま

で以上のいい試合の結果もでると思うし、そしてなにことにも自信がでてくると思います。

新しいことに挑戦して、いろいろな打ち方をできるようにしてほしいです。最後に、試合に勝つことだけに捕われず、悔いのないよう一生懸命がんばってほしいと思います。

(和田 記)

後輩たちへ……

テニス部(女子)

あつという間に一年・二年……と過ぎてもう少して

中学校生活も終りというところまで来てしまいました。

部活の思い出の中には、

つらい思い出や楽しい思い出などいろいろな思い出があります。

私は、部活をやったよかったと思っています。

テニスなんて、ただ、ボールを打つだけなので簡単

だと思っている人もいます。

でも、やってみると、そう簡単にできるものではありません。どの部でも、同じですが、始めが大切だと思います。

そして、その大切なものをいつまでも忘れてほしくないと思います。それと、試合は、勝ち負けにこだわらず、精一杯頑張つて

くいのない試合をしたほうが、ぜったいに、いいと思います。

くやしい思いや悲しい思いを次への目標にして頑張つてほしいと思います。私達のかなえることのできなかった夢の分もがんばって下さい。

(佐藤 記)



もつと強いチームを バスケット部(男子)

僕達三年生は、練習試合では一回しか勝ってないので、最後の大会となる中体連こそと、毎日朝練習や放課後遅くまで汗と涙をふりしはり、再び五稜中学校男子バスケット部の弱い伝統を受け継がぬよう一回戦突破を目標にして精一杯がんばってきました。

クジ番号は一番で選手宣誓ができ、良かったのですが、対戦相手が前年度一位グループの旭中と対戦し、前半から大差のリードを許してしまい、後半も追いつくことができず完敗してしまい悔しい思いをしました。だから、これからバスケット部を受け継いでいく後輩達には、ぜひともこんな悪い伝統を受け継がぬようにもつと強いチームを築きあげて、そして大きな目標を持って一つ一つ確かなものにし、中体連一回戦突破をしま



てもらいたいです。

最後に、毎日練習につき合ってくれた一年生、試合に出て戦ってくれた二年生世話をしてくれたマネージャー、そして二年間教えてくれた石井先生と三河先生三ヶ月半だけ教えてくれた古館先生、本当にありがとうございました。

(山形 記)

全道大会の扉を

バスケット部(女子)

ビストルの音とともに中学校時代の部活動が終わった。三回戦、五稜桐花、36-42としてだろうか涙

が流れなかった。時間が経過した今、真剣に試合に取り組まなかったことが、しみじみと感ずる。そして、今これから過去をふり返ってみようと思う。私達、バスケット部は、過去四年間一度も勝つことがなかった。

しかし、道南の新人戦で第三位という栄光に輝いた。あと一步というところで全道大会をのがしてしまった。そして、その時の練習は意味のある練習もしていたと思う。時は過ぎ冬季リーグ、予選リーグは四位と立派な成績ではなかったが、トーナメントでは、みごと優勝することができた。そして春、今まで指導して下さった石井先生にかわり古館が来て、三ヶ月がはやくも過ぎてしまいい中体連がきた。そして私達は、中体連に向けて私達なりに努力したと思います。最後に、一・二年生の諸君、全道大会の扉を開けるように努力して下さい。又、古館先生・石井先生、長い間、ありがとうございました。

(高井 記)



私達の三年間

バレー部

私達は二年だけの夏休み、三年生がいないという開放感のせい一か、練習内容もだんだん少なくなっていく、しまいは中止とゆう日もありました。そして新人戦はあたり前のようになんて負けてしまいました。月日が経つのは早いものであつたという間に三年生になりました。試験の前なのに私たちのために先輩が来てくれて、みんなやつとやる気をおこし、練習に一生懸命打ち込むようになりました。それぞれにも自信がついてきた頃、練習試合をやってみると、いつの間にか勝っていました。そして中体連、あつた学校は伝統があり試合ではいつも最後の方まで残っている付属中でした。それを知った時、もう私達は負けていたのかもしれない。



結果は、精神的にどうしても勝てず惜しい所で負けてしまいました。しかし、私達の本当の力、チームワークを出し切っていたらきっと勝てたと思います。最後に、大坂先生、辰宮先生、あたたかい励ましと力強い御指導どうもありがとうございました。

(猪股 記)

これからは……

ソフトボール部

私達が入部してすぐにレギュラーになれたのは、うまかったわけではなく、先輩が少なかったからです。これはソフト部の一番の悩みでした。

ルールも全く知らず、ただ先生にどなられていた私達にとって、先輩の行動を見て判断することしかできませんでした。

ところが前の三年生が卒業していき、先輩はさらに少なくなったのに、のこった先輩たちもやめていきました。結局、今年の中体連にて先輩はたった二人でした。一番大切な時期に、頼る人がいなくなつたので、私達の練習は前よりずっとひとくなり、先生もあきれいています。新人戦では、このだらしなさが、まざまざと結果に出てき、「明日からの練習をもっと大切に、充実させていこう」と、だれもが反省しました。しかし、一度はそう思うのですが長続きしません。せっかく築いてくれたこの部を、ここでダメにしないよう、私達は「練習」というものをよく理解し、実行していきたいです。



(遠藤 記)

のこった後輩へ

柔道部

まず今年の中体連は、先生も新らしくなり、もしかしたら三位も夢ではないと思いました。しかし、3位どころではなかった。

だが、みんな気合いが入っていたけど、順位は、わるくて残念であったが、個人戦で、一年生の今田君、浜田さんが、3位を取りうれしかった。自分は、キャプテンとして、全力を尽した結果が、2位という、自分では考えられない、素晴らしい賞を取りましたが、ひどくも取れなかった後輩は、新人戦、中体連でガンバってください。それに、先生方の努力により、部室もできました。努力の結果できた部室を、無駄にはせず、山本先生の言うことを、聞き、マジ



メにサボらずに、やって良い結果を、うんでもらいたいと思います。最後に、『のこった後輩』は、山本先生やほかの先生に迷惑だけは、絶対にかけないでください。

(山村 記)

中体連の思い出

水泳部

水泳部は九月七日に中体連をひかえ夏休み返上で練習しました。まず、クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライを百メートルずつ四百メートル泳ぎ、それから、二十五メートルをタツシユし帰りの二十五メートルをゆっくり泳ぐのを十本しました。なれてきたら、五十メートルずつにきりかえました。タツシユをしたあとタインと飛びこみを十本ずつ行いました。最後に自分の出場する種目などのタイムを計りました。タイムはみんな昨年よりかなり速くなっていたけれどタイムがなかなか縮まらず、とても苦労しました。でも、ほとんど泳げないで入部した人も、とても泳げるようになりました。はくもその中の一人で昨年入部したときは、やっと二十五メートル泳げるくらいだったのが、今では千メートル以上泳げるようになりました。そして、ついに中体連の日になりました。我が校はあまり良い順位ではなかったけれど、ほとんどの人が自己新記録をだすというすばらしいものでした。思い出に残る大会でした。先生どうもありがとうございました。

(斉藤 記)



部活動をとoshie

吹奏楽部

“全道大会出場”これは入部した一年生の時からの目標だった。

しかし、過去の先輩達の築き上げた素晴らしい成績を今年は下げてしまった。これはとても反省しなければならぬ。銀賞という成績に終わったが僕自身その成績を決して恥ずかしいと思わない。なぜなら一生懸命練習したからだ。下手だと言われてもその分、頑張ったからだ。だから悔やんだりしなかった。後輩諸君、

結果を期待する前に一生懸命練習を頑張れ”

また、最後までやめなかった三年生の部員は、苦しかったが本当によくやったという満足感というものがあるのではない。

課外活動の中では五稜郭養護学校との交流会がとも印象に残っている。それと部活をと

して楽しかったのは、やはり合奏だ。

この合奏の楽しさをいつまでも忘れずにいてもらいたい。

最後に吉田美奈子先生、二年間大変お世話になりました。当にありがとうございます。

(石黒 記)



来年の写真部へ

写真部

今年の写真部の部員は、

全部で12人、他の部よりは少ない部員数です。文化部の中でも吹奏楽部にほとんど生徒は、行ってしまうし運動部の方で野球部とかサッカー部にはほとんど生徒は行く。

そんなことで毎年写真部では、10人程度の人数で部活をしています。人数が少ないので部の予算も少ない、だから昭和49年に買ったような機材を今も、使っています。

写真部の恒例行事は、文化祭の展示・中体連の撮影・などなどで年に数回しか皆さんに、見てもらえないのが写真部のつらい所です。

今年から顧問の先生が、変わり今までは、違った活動もするようになりました。フィルムでの現像をするようになったり、生徒会誌五稜にも写真をのせたり、いろいろ活動をしています。

今年も写真部は、「部活をしていない」というイメージが、強かったようです。来年の部長には、こういうイメージをなくすようにガンバッテもらいたいと思います。



(植松 記)

苦勞した一年間

合唱部

今年の合唱部は、練習らしい練習が少なかったと思います。今年は昨年よりも部員が減り、一人一人にやる気がなかったということが大きき理由だと思っています。練習に全員が集まった日は数えるほどしかありませんでした。いつも先生に注意をされ、やめてしまいたいと思うことが何度もありました。しかし、二期期が始まり、文化祭、合同音楽会がだんだん近づいてくると、私達もやっとなる気がでてきました。曲も決まり、人数もかきあつめて少し増えて、練習を始めました。でも、発声練習や腹筋などの基礎がしっかりとしていなかったために、なかなか思うようには歌えず、みんな苦勞したと思います。本番でも、かなり緊張して声がひっこんでしまい、決してうまかったとは言えませんでしたが、みんなそれなりによくやっただと思います。来年はもっと人数を増やし、コンクールに出場できるように頑張ってください。



(松尾・平塚 記)

最後に田村先生、二年間本当にありがとうございました。

郷土研究部よ永遠に…

郷土研究部

郷土研究部がこの学校に発足して早くも三年が経ちますが、今年は文化祭以外あまり目立った活動はなく部としては反省すべき事だと思っています。しかし、発表の機会があまりなかったという事もあります。話は変わりますが、今年の文祭祭でのスライド「村垣さんの公務日記と函館」は短期間で仕上げたため、前作よりも多少粗雑だったかもしれませんが、内容的には一番皆さんに分かってもらい今後の函館について考えさせられるものだったと思います。このように我が部の主な活動は「私達が住んでいるこの函館をよりよい方向へもっていくために、沢山の皆さんに何かを訴えかけ分かってもらおう」というものです。しかしこの素晴らしい部に危機が迫っています。それは「部員の不足」です。今年度の部員は二年生が一人だけで他は皆三年生なのです！だから皆さん、来年はだまされず(!!)この部に入って下さい。それでは最後に一言。

「郷土研究部は我等の心の中にいつまでも」(三年生一同)としているところがまだ希望がある!?

(立林 記)



一つの劇から

演劇部

日ざしが強くなりはじめた初夏、演劇部は、「神様と天火」に向け練習を開始しました。今年は、強力な助っ人、山形君と千葉君を迎え部員全員でわきあいあいと練習に励みました。演劇って簡単そうに見えるかもしれませんが本当は大変努力がいるものです。役になりきる、動きを自分のものにし、せりふが自然に出てくるようになるまでには、幾度となくきびしい指導をうけました。

緑の下の方持ち、スタッフのみんなが一生懸命働いてくれたり、ライトを貸りてきてくれたり、ステージを広くしてくれたりと、文化担当の先生方、大勢の先生方、文化委員の人達の協力がありました。そして、文化祭の劇でのたくさんの温かい拍手は、今までのつらかったことすべてを忘れさせてくれました。

演劇って、暗いイメージがありますが、一度そのおもしろさにとりつかれてしまつとなかなかぬけられないものです。最後に、演劇のおもしろさを教えてくださった、上田先生、本当にありがとうございました。

(酒井 記)



スキー大会に参加して

スキー部

冬の中途連。スキー大会のことだが体験した人はごく少数であろう。壮行式をやるわけでも、応援に行けるわけでもないの、知る人も少ない。夏に行う中体連から見ると、大変おびしい。

平成元年2月7日火曜日、この日は朝からしはれていました。7時50分学校玄関前集合。山本先生は朝に弱いのか、顔はいつもの笑顔だったが目が半分寝ていた。そして専用のバスに乗ったスキー部員は、1年生はさすがに緊張していたが、2年生は相変わらずだった。五稜のスキー部員は、1年8名、2年5名、3年3名、と結構いる。



この日、選手16名、補欠2名が出場した。大会は強風というほか、絶好のコンディションだった。しかし、あまりにも状況が良すぎるのも気持ちが悪かった。ここに健闘した選手の成績を発表します。

1 A 工藤・学年26位、1 A 後藤・24位、1 C 田中・21位、1 D 大沢・25位、1 D 木村・27位、1 D 湊・20位、2 3 工藤・総合30位、学年12位、2 C 佐古・総合18位、学年8位、2 C 三浦・総合15位、学年6位、2 E 村中・学年28位。次は上位入賞が目標(三浦・記)



卒業は明日との出会い

〇〇〇このひとことに託して、今、飛び立つ〇〇〇

紙風船

落ちて来たら

今度は

もっと高く

もっともっと高く

何度でも

打ち上げよう

美しい

願いごとのように

(黒田三郎による)

A 組 三年A組の仲間

担任 大坂邦子先生

我々三年A組は、日ごろの生活態度が良い時と悪い時がある。

例えば、先生がいる時は、おとなしくしているけれど、先生がいない時は、教室中うるさくなり時々先生に注意されることがある。でも、そんなことにもめげず明るく楽しい学校生活をおくっています。うちのクラスの自慢は、賞状の多いことです。中でも校内球技大会の男女そろつての優勝は、練習の成果とみんなの協力と努力で得た団結の結晶です。このように、三年A組は、何事にも担任の大坂先生を中心に一致団結して協力できるすばらしい学級です。

(吉岡 記)

一人一言

冷たきは夜、激しきは風、こにしきは大関。

いつまでも忘れない。みんなと出逢つてからの少しの思い出を・・・

ただ一人オレを泣かす女がいる、そんな女がたまらなく好きだ。苦しいくらい

長いようで短かった学校生活はともおもしろかった

ひねくれかけた瞳のずっと奥に、もがいてるもう一人の俺がいる・・・

そんな夜は心で命の音を聞け、たかがこんな自分とは、一度だけからかって

I DON'T WANT YOUR FAITH 最後には自分には自分の力で・・・

先生方に、いろいろとお世話になりました。

三年間の中学生活も、「今宵はこれまでにいたしとうござりまする。」

この三年間はじつに短いようで長かった。

長いようでとても短かった三年間の学校生活で大坂先生は一番こわかった。

五稜中での生活はたのしかった。

空が青みをおおははじめ鳥がさえずる。しかしこれからの道は更に厳しい。

雨の日に二人で帰ったあのときをオレはわすれない。

望みは高すぎるくらいに、死にざまの中にも生き方がある・・・

卒業だ。これからは思い出を心にしまつて、未来に突き進むだけだ。

バイクは、俺の青春のいちページとなるだろう。

浅倉 保	伊藤 俊幸	大西 敏也	長内 真一	長内 良次	叶野 修	小林 剛	清水 義広	高橋 真一	高松 真章	田中 徹哉	村馬 貴昭	中村 慶弘	野又 祐幸	林 弘人	難田 昌宏	星野 英樹
------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------

男という誇りを、忘れず、たった一度だけの人生愛おしく生きろよ。
一番怖いものは勇気だと知った時自分の弱さに思わず鼻を摘んだ・・・

S O L O N G G O O D - B Y E

長いようで短かった3年間の学校生活は、とても楽しかった。

何を書いたらいいのかなあ? どうしようかな?

さようなら いつまでも元気でいます。さよならバイバイ

あつというまにすぎた3年間の思い出は、いつまでもいつまでも忘れません。

どれほどの季節が、どれほどめぐり来ても、楽しかった日々を忘れない・・・

願いは瞳に飾られて、恋は星座に囲まれて 見つめられても迷わずに・・・

のぶ みほ まみ おっか たつちゃん みんな また会う日まで元気で・・・

制服たたむその前に 廊下で騒ぐ声 pensando 泣きたいくらい息がつまった。

T H A N K Y O U F O R Y O U R L O N G K I N D N E S S . . .

友達、宝物より大切でした。

思い出あふれる惑星、それは「地球」私達はその惑星にまた思い出を残さず。

I s e e y o u r t r u e c o l o r s 悲しい出来事も輝きに変えて

離れても 変わっても 見失っても 輝きを消さないで・・・

I W O U L D L I K E T O B E W I T H Y O U F O R E V E R

生きているのが怖い時 隣りで支えてくれる人 L O V E F O R E V E R . . .

E V E R Y B O D Y M O V E Y O U R B O D Y

3年間みんなありがとー 道で見たら必ず声かけるんだぞ? S a x は最高!

あと少しで、私達も卒業ですが、私達の一年は、長いようで短い感じでした

涙と一緒に流れてしまった思い出を小びんにつめ 胸の奥にしまっておきたい

今まで作った思い出を大切に、これからのいろんな事にがんばりたい。

もう二度と心が届かないまま思い出にかわってしまうんだね

これからのときを大切にしたい。だってじかんはとりもどせないから・・・

何が悲しくて涙を流すのだろう。空は・・・

お願いがあるんだけど・・・

関子	宮本	三好	吉岡	吉田	和山	麻生	厚谷	石沢	石森	伊藤	猪股	岩田	大須賀	岡山	佐々木	下	鈴木	住吉	立本	筒井	鳴海	平塚	筆村	松尾	吉村	渡辺	塩越
和博	貴幸	哲生	直人	聡	将仁	久子	理香	麻衣子	早織	美華	光穂	直子	嘉子	治子	麻美	真由美	忠理	理恵	真由	晶子	史子	康子	真理子	利香	みどり	ちえり	澄代

B 組 三年B組が得た財産

担任 吉田美奈子先生

初めてくぐった校門。あれからもう三年。「楽しく明るい教室」を合言葉にこの一年間どれだけの財産を得てきたのだろうか。それはいつの日か「一致団結」という財産を得たのだろう。

みんな汗を流して終ってみたら優勝していた体育大会、2位に終ったマラソン大会、敗れたとはいえ精一杯がんばった球技大会、毎日何回も何回も歌って金貨を取った合唱コンクールの歌声、と一人一人が持っている力を出しきり、一致団結をして楽しくやってきました。すばらしい財産を得たと思います。こんな良い三年B組でした。

(山形 記)

一 人 一 言

「まさかの友は真の友。俺にとって真の友とは誰のことだろう!?」
長いようで短い、短いようで長い三年間だった。

卒業しないで二人で窓の外をふる雨を、見つめていたかった

F A I T H (信念)を持って誠実に生きてみせる

本当は、ぼくは、カッコイイし頭もいいしお金もちやんと返すんだよ。

みなさん、さようなら。また会う日まで……。

もう一度一年生からやり直したい!

かなしみを喜びにかえられる日まで、この一瞬に全てをかけて生きていきたい

長いようで短い3年間だった。悔の残るようなことが多かった。

出逢いのはじまりはわかれのはじまり。

社会をもうちょっとガンバリたいと思う

三年間たのしかった

Don't want so lonely night any more

中学三年間を振りかえると、それは

東京に行きたいようお!

明日の天気は、晴れだぜ。

「金のきれめが、えんのきれめ」みんなお金持ちになろう。

阿部 剛三	安部 雄尚	石岡 勝	石黒 陽	植松 哲史	小山内 哲也	小西 英治	齊藤 裕久	佐々木 剛	佐藤 英人	滝本 明博	田中 健司	鶴谷 聡	外山 善千	土肥 龍一	堂前 和志	橋本 高明
-------	-------	------	------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

さよならは別れの言葉じゃなくて再びあうまでの遠い約束　さよなら・・・
ルバンと呼ばれたこの三年間。

しゅう会があるからやだ。

ばくは、君をいつまでも待っている

こんなバカを、思ってくれる人がいるのならオレはその人のために何でもやる

オレの三年間は長いようで短かった。これで自由になれるぜ。

友だちだよ恋人ではない。何が起こっても消えない。

幼い日々にさよなら、かかえきれないほどの夢を両手に

いつか、あの思い出がほかの記憶と同じ色になってゆくまで、楽しく生きるの

二人だけでいくつも夢を描き、いつの日も街の中くり出していこう

時の中に捨てていったものとひきかえに思い出は汚されない

人生はあなたが思うほど悪くない　早く元気出してあの笑顔を見せて

Dear my best friend　時間がおとした　小さな忘れもの

さようなら・・・そしてこんにちは　楽しい思い出をたくさんありがとう・・・

いつになったら、私の中にひそんでいる本当の私にたどり着くのだろう・・・

私の思い出はあの夏だけ。私の心はあの夏から一歩も成長してないでしょう。

いつも失ってそれから気づく　時間のスピードが愛より少しだけ早かった××

三年間みんなありがと・・・

さようなら・・・またあえる日まで元気でいようね。

子供の頃には大きなつばさがあればと夢を見た

Dear my best friend　元気でいてね　見知らぬ空の下

LONELY ANGEL　大人になる片翼だけの天使の反乱

瞳を閉じて願いが叶えられたと感じた瞬間

いつもてれながら微笑むあなたに永遠にどこまでもついていきたい

青い空の向うで・・・振り向くといつもやさしさが迎えてくれる

河が確実に海に注ぎこむように決まて変えることのできない運命がある

涙を流すだけ　過去の大切な思い出が　また　ひとつ　消えてゆく・・・

どんな時もほんの少しの勇気があれば　きっと希望に導かれるはず

I never forget you forever

森	三浦	松田	布施	坂東	畑沢	村馬	月山	玉山	立原	高橋	高橋	高橋	鈴木	佐藤	佐々木	齊藤	小平	倉知	尾見	大高	板橋	吉田	山村	山形	水沢	三浦	浜田	
千尋	美佐子	一恵	実木	理加	舞	真由美	裕子	知子	靖子	由起子	真由美	純子	雅子	昌子	忍	園子	ふみ子	温子	幸子	由佳利	友美	将司	宏	淳	一成	考行	和也	卓也

C 組 素晴らしき三年C組

担任 斉藤克巳先生

私達三年C組は、とても明朗活発で、そして、全員が一つになって頑張れる楽しいクラスです。例えば、今年の校内球技大会において、保体委員を中心に、男子はサッカーに、女子はバレーボールにあーでもない、こーでもないなど言いながら、朝早くから放課後までと、幾日も練習を続け、その結果、男子は二回戦で惜敗、女子は準優勝を果たし、皆で喜びを分かち合い、クラスの一人一人がなしたげた意義を感じ取ったのです。授業中では、たまに、元気の良い人が先生を困らせることもありすが、もし、このクラスの誰かに悩みが発生したら、皆で解決してくれそうな、そんな楽しい仲の良いクラスの様気がします。

(増川 記)

一人一言

また、いつの日か会う日まで・・・ さようなら

NOTHING'S GONNA STOP US NOW

名替と栄光のためでなく・・・新しい世界のために

高校サッカーでテレビにでてみんな「パンサイ」するぞ。

一ツの朝、二ツの袋、三びきの子ぶた、一〇ワンチャン、ドイツ軍こい。

夢と遊ぶ・・・

Words can't say what a love can do

An angel's smile is what you sell.

また、会えるぞ 旅の途中で・・・

これはなやむなァー

宮沢さんさようなら。はまいうさんこんにちは。くちくさパンサイ

去年は、やく、年だった悪いことばかりだ今年はいいことがありますように

これを書いたのは11月19日。はたして私はうかつにいるのだろうか？カボシノ

消えない笑顔で、綺麗な涙を、そのすべてを今、俺にくれないか・・・

旅立ちの時がきた。おれは進まなければならない。またあうことを願い・・・

「自主的判断みんな協力」ができたと思う・・・くちくさパンサイ

阿部ちゃん・あつき・秀司・社長・盛田。皆優秀な戦士だった。ぶりるれび。

阿部	厚次	池田	聡	石垣	祐司	及川	元治	岡田	知樹	奥村	賢司	加藤	充	川村	卓	菊池	聡	木村	元生	熊沢	秀一	小林	正人	佐藤	淳	志毛	慎太郎	高橋	秀司	高松	俊章	立林	英樹
----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	---	----	---	----	----	----	----	----	----	----	---	----	-----	----	----	----	----	----	----

As close as possible to you

I will be there for you

三年間お世話になりました。

君と離れていると一秒がまるで永遠のようだった。

はくは超人なんかじゃない。……人ちがいたよ。

今というときは二度ともどつてこない。だから今というときを大切に

一人一言で四回も書き直しと言われるのもむなしや

SAYONARA TO YOU IN MY DREAM

瞳を閉じれば、いつもそこにあなたが……。……

Never Cry for love again.

自由を与えず、さもなくば死を。クシヤナ殿下ばんざーい。さらば愛しき次元

「さうさ一日だった。」と、リンゴはつぶやいた。三人はうなずいたよね

書き直しと言われ続けて四回目。やっと合格したこの一行

……みんなでキヤーキヤーしてたときが一番楽しい時だったよね……

I REMEMBER THAT SMILING FOREVER……

「さうさまたぐさんあいたけな」思ひ出さな。

GOOD LUCK WITH TEARS AND SMILES……

ね、順ちゃん、春山より石川なつちゃんの方がいいよね。どうでしょうね。

また、会える日を楽しみに……

Your day breaks your mind aches/

SO SAD BUT LET'S GO FORWARD OVER IT/

TOMORROW IS ANOTHER DAY/

NEVER SAY NEVER I CAN'T

また逢いたいね。逢っていろんなこと語りあえるかも。

卒業してもずっとな。ともだち。でいよーね。

そしてはくはあるきはじめる。

彼独自の愛の表現、暖かさ CHARLIE CHAPLIN FOREVER

えーやっぱり春山だよ。さー、ひまわりOOOの方。……(さーごめん)

田中 一彰

長尾 知

長山 宏隆

畑沢 尚人

保坂 信人

盛田 泰史

小野寺 聖樹

木村 正枝

今野 重矢

齊藤 有里

坂口 菊恵

坂本 美佐子

佐野 涼子

下山 千恵子

西原 智栄

野田 美雪

東山 裕生

福岡 紀栄

笹村 恵美子

堀川 麗子

増川 智美

光谷 寿絵

湊 真希子

村田 幸恵

森谷 香

山崎 みのり

吉川 英穂

渡辺 順子

D 組 豊かな表情のクラス

担任 山岸 岩 夫 先生

三年D組のことを書こうとすると、頭の中に浮ぶのは、授業中に寝ているやつのはげ顔。修学旅行の時、雨に降られ、よどんでいる顔。体育大会で勝った時の喜びの顔。テスト中の知的な顔。合唱コンクールの練習の時の真剣な顔。給食時間のくつろいでいる顔。クラスのかわいい子の顔。担任の怒りの顔。笑いの顔。など……「顔」がイメージとしてとらえられるのである。ともかく、我クラスは表情が豊かなのだ。校内大会での戦績は、校内体育大会男子一位、総合二位、マラソン男子一位、サッカー二位というように男子は輝かしい足跡を残したのであった。女子はバレーボール決勝戦において、ルール違反で二位のチャンスを逃したのが忘れられない。

(山口 記)

一人一言

負けた負けた 自分に負けた。

義務教育よサヨウナラそして新しい未来よこんにちは！五稜中よ永遠に！！

いつかまた今と同じ時を過せたら、その時は後かいしないでしょう。

生きてろよ、またどこかで会えるだろう。どこかでまた語り会おう。END

人生苦しいことばかり。楽をして人生を過ごそうと思わないから。

ええかげんなやつじゃけん、ほつといてくれんさい。

九年間の義務教育が終った。これで雲のように自由になった！よかったなあ

こわれた昨日は、想い出にできる。おまえだけを守っていたいのさ。

燃やしている嘘の色は明日に続く。目をそらさず追いかけているか

もう一年五稜にいたかった！でも時間は戻らない、たとえおいかけても……

もう二度と、忘れない。この時を！！

夢じゃない愛を、いつのまにか探し求めていた、知らない間に！

中学卒業というけれど、何かが終わるといふ気がしない。当然だろうけど……

ジーンズをたどると一本のリーバイスになるTHE ORIGIN LEVIS

涙はサヨナラの哀しい忘れ物。はくの未来はバラ色だ。

三年間の中学校生活は一瞬のようにして過ぎ去っていった。
「ローマは一日にしてならず」というこれらもがんばるぞ。

星川	藤本	藤原	林	埜中	高橋	柴田	佐藤	佐々木	合田	齊藤	日下	川村	柏谷	岡田	安達
創悦	圭	輝	信洋	和秋	広美	透	孝司	竜紀	政孝	孝司	貴幸	勝美	将	健一	康洋

三年間の榮耀一睡のうちにして、校舎の跡は一里こなたにあり。

みなさんThank・youそしてGoodby!

扉をしめると三年間の思い出が消えていく。これから俺なりの人生をあゆむ。

鳥が空へ、遠くはばたくように、いつかとびたてるさ、自分だけの翼で・・・

優しく、強くて、悲しくて、そして愚かな我が友よ。私の最後の挨拶です。

時はいつも同じはやさで流れ、人の波も時と、同じほどはよい。

これからさがし求めていることは心友というただ一人の心からの友

たとえ離れても、想い出の中で、あなたとめぐり逢いたい……

小さなポケットにあふれる思い出も、いつかどこかで消えてしまいたい。

立ちどまれば涙があふれるから、このまま夢みるように別れよう。

いつまでも新しい明日を抱きしめて夢みるように別れよう。

たとりに着いたら、夢の断崖で、僕は目覚めて、暗闇に独り……。コミケ行くぞ!

ひとつのピリオドのその向こうは、誰にもわからないふたりだけの道……

ソーダ水にすかした朝陽よりもずっと素直でありたい。I'm sorrybye

心の奥にある△夢△をあきらめないで……ね。

涙の河を越えて、素直な自分に出会うため、夢を捜し続けたい。

新しい思い出をつくるために旅立つのよ、でも、未来で出会える気がするね。

二度と戻れない時をすぎ、まだ見ぬ明日を求めて旅立つ。

三年間の思い出は、二度と忘れない。goodby 高校に行ってもがんばる。

思い出の一つのようであるままにしておく学生カバンの傷々。

あの時のような友だちを、二度と持つことはできない。誰だって……。

別れ、悲しいけれどきつとその日は来るから……できるなら時計を止めたい。

時計の針を指しておさえながら、できるならば止めてみたい、過ぎていくこの時

今日の終わりを知らずにいたいけど、ほほにふれた風は二度とはもうかえらない。

いちばん大事なものが、いちばん遠くへいくよ……すべてが思い出になる。

見えないもの、それが真実。見えるものは、嘘、なんてセリフ、似合わない!

私が一番ほしい言葉をあなたがくれたら今度は素直に好きといえるのに。

あーあ、男だったらぜーったい有斗にいきたくかった

松下 裕司

三浦 一智

武藤 寛之

村井 博明

山口 武治

山村 将太

稲葉 優子

猪股 日名子

大島 弘美

小野 幸子

邑 明子

紺井 かず紀

坂井田 亜希子

笹野 文恵

沢田 忍

志村 愛

菅原 和子

鈴木 雪絵

瀬戸 優貴子

田村 志織

寺谷 千春

新田 めぐみ

野呂 佳子

浜田 康子

松見 智恵子

村上 奈緒子

森 英恵

吉田 雅佳子

E 組 リコレクション

担任 辰宮 稔 先生

その夕日のよく見える丘に一人の男がたたずんでいる。彼は懐しそうに笑いながら昔の事を話してくれた。
「中3だったあの頃が懐しいよ。確か辰宮とかいっ先生が『海峡』という学級通信を書いていたな。あの頃のウチのクラスは表彰状といえ
ボスターコンクールの奨励賞くらいのも物しかなかったけれど、皆楽しそうだった。廊下でサッカーをする者もいたし、頭を便器に突っ込ま
た奴もいたな……。とにかくにぎやかでいいクラスだったよ。——おっと、もうこんな時間か。じゃあ……。」
男はそう言うのと去って行った。沈みつつある夕日は徐々にその波動を増し、町は黄昏色に染まってゆく——。

(菅原 記)

一人一言

中学校生活が終わったヤッター、ラッキィ、バンザイ、GOOD—LUCK
バーバモジヤはうそつきだ。

愛する人よ、あなたなしでも生きていけると思っていた……。
俺はいつも1m台で優勝している。今度は2m台で優勝する。

I WILL SEE YOU BY AND BY.

TIME FLIES LIKE AN ARROW あっという間の三年間

SEE YOU AGAIN! またいつの日かきつとお会いしましょう。

みなさんお元気ですか。キーワードは、「くうねるあそぶ」

一言なんて書けません。どうせ作文も英文もだめだよ。末広ずしをヨロシク!
あっというまの中学校生活。

I WANT TO SEE YOU AGAIN SOME DAY……

函館市立五稜中学校……。忘れることは、ないだろう。

何一つできないオレだけとおまえを守るためなら何にでもなれる。

REMEMBER ME 忘れないでくれ どこにいても 想い出の日々を

放送委員いつまで続くまだ続くああ多忙な三年目の放送委員

長いよーで短かった三年間……

おれはバーマじゃない

青山	智哉	江口	幸弘	近江谷	昌弘	木村	貴弘	小森	紀良	齊藤	伸幸	菅原	政志	谷川	一夫	寺沼	藤夫	富川	悦也	中井	大人	中者	義晴	福井	尚彦	藤谷	宏	堀江	英樹	股部	利成	三上	隆一郎
----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	-----

誰にも、邪魔されずに二人で いたい：

人生 楽ありや苦もあるさ

時の流れは早いもの。でも、いまは時の流れをみとめたくない……

TIME IS MONEY

笑顔だけは、たやさないでくれ。君の笑顔にほれたから。

今でも、ずっと君への想いはかわらない。僕の心を焦がしたのは君だけだった。

青春はバクハツだ！

SEE YOU AGAIN MY FRIEND

「小」どれほど季節が、どれほど巡りきても、楽しかった日々を忘れない。

「ば」TRY AGAIN 歩いてゆくのもう一度いつか夢は真実になるから♡

「し」今日の日をいつまでも想い出に残して、みんなとさよならしましょう。

泣いてばかりいたあたしをなぐさめてくれたのはいつもあなたの愛と笑顔。

「リ」すてきな夢 あこがれを いつまでもずっと忘れず……

またいつか みんなにあえるだろう！ それまで SAYONARA だよ！

さようなら そして いつか また 会いましょう。 //

MINNANO TABO YOROSHIKU

現実が心をゆらしても 君とならなにかがつかめそう……

私の恋しき人よ GOOD LUCK

I LIKE A SAFETY ZONE VERY MUCH♡

KNOWLEDGE IS POWER

三年間、もう一度やり直したいなあ……

友達だった君とだけはまた会えるといいね。さようなら。

I WILL REMEMBER OUR HAPPY LIFE.

「や」あなたの夢をあきらめないで遠くにいて信じている……BYE ヒュ！

「め」この学校と2年間片想いで好きだったあの人にさようなら……

「ろ」想い出にはできないから夢みる人、忘れない BYE ヒュ！

たとえあなたの優しさが彼女のものでも、ずっと好きでいられる。

「時は忍び足で、心を横切るのオ」はやいなあ、もう三年。んじゃね。

山村	山田	三上	逸見	福山	乗田	野口	中井	辻屋	田中	田中	竹内	下篠	佐々木	熊谷	工藤	木村	北山	内田	伊東	伊藤	桂川	鈴木	和田	米田	吉村	山谷	宮地
由記	結歌	智恵子	直子	麻紀子	靖子	美貴	結花	亜紀子	円	奈美	ルミ	貴子	裕子	育	奈央	恵里子	郁子	塔子	まゆみ	信子	章吾	宏招	隆行	尚生	聖司	幸伸	司



体育行事

●全道大会出場

・陸上競技

- ・木村 貴弘 (走高跳第四位)
- ・大西 敏也 (ハードル)

・卓球

- ・高橋 志保 (個人戦)
- ・女子団体 (新人戦)

・水泳

- 田中 健司
- 畔柳 淳一
- 清水 学

●全市中体連

・陸上競技部

- 木村 貴弘 (走高跳第一位)
- 大西 敏也 (ハードル第三位)
- 三好・新谷・田中・中村

(女子Jリレー第四位)

・サッカー

第三位

・ソフトボール

第三位

・卓球

・団体

- 男子 第三位
- 女子 第二位

文化行事

・個人戦

高橋 志保 (第三位)

永浜 貴之 (第八位)

・新人戦

・団体

男子 第三位

女子 第二位

・体操

・女子団体 (新人戦)

浜田 智子 (個人総合第四位)

・柔道

今田 光信 (一年生の部第三位)

山村 淳 (三年重量級第二位)

浜田 智子 (女子中量級第三位)

・水泳

田中 健司 (100 m自由型第四位)

中村 慶昭 (400 m自由型第四位)

畔柳 淳一 (100 m平泳 第五位)

清水 学 (100 m平泳 第六位)

清水 学 (200 m個人メドレー第四位)

田中・中村・清水・畔柳 (リレー第六位)

塩谷 美鈴 (100 mバタフライ第五位)

・スキー

三浦 貴二 (二年の部第六位)

・書道 (全函館児童生徒席書大会)

相原有希子 (特別賞)

亀谷 千夏 (金賞)

吉田稚佳子 (銀賞)

津谷友季子 (銀賞)

・美術 (ポスター公募展)

石黒 陽 (毎日新聞函館支局長賞)

林 義賢 (スクリーンメイト賞)

伊東まゆみ (クロバー工芸社賞)

・吹奏楽

銀賞

修学旅行記

初の海峡線の旅



一日目

修学旅行への出発

三年B組 高橋純子

朝です。とうとう出発の日が来ました。忘れ物はないだろうか？何かものたりなく不安で、ドタバタ、ドタバタ、おちつかない。それが私の四日間の始まりでした。

初めての津軽海峡線。車内は新しく、居こちがよく、トンネルは、まだか、ワイワイ、ガヤガヤ、あつという間に青森についてしまいました。

青森駅につき、雨にぬれたまま走ってバスに乗りました。バスの中では、楽しいガイドさんを中心に、ゲームをしたり、話をしたり、互いを紹介し合ったり楽しくすごしました。

最初の見学場所は岩手県立博物館でした。ここには、原始、古代から現在に至る岩手の歴史と文化の流れ、果土を構成している地質鉱物、並びに岩手県に関する資料などが、たくさんありました。その中でも一番印象に残っているのは「体験学習室」でした。古くから人々が生活の中で使用してきた民具等を展示して、自由に使えるようになっていました。ある人は、よろい、かぶとを着たり、こまをまわしたり、けん玉をやったりして昔の生活を表しているようでした。

次に行ったところは宮沢賢治記念館です。昭和二十年の花巻空襲で遺品が数多く焼失したそうですが、館内に入ると、詩や童話など多彩な活動のあとが、ありありと出ていたと思います。当時の貧し

い農民のために、少しでも生活を豊かにしてあげようと力を尽した賢治の気持ち表われているような気がしました。自分のことで一杯なのに、人のために一生をささげた賢治さんのような生き方をしたいと思います。

やっと志戸平温泉につきました。慣れない旅行で、もうぐったりです。夕食を食べて、各自部屋にもどり一日の反省をした。いつもとは違う夜、皆で色々な話を、教室で話するときより、ずっと気楽に話せた。今まで知らなかった友の一面が見え、とても楽しかった。とっても短かい一日でした。

二日目

藤原氏三代の富と力

三年A組 立本真由

二日目、天候も悪く、みんなの顔が少し暗くみえる。しかし、いざ貌鼻溪の舟下りとなると心が弾み、うきうき浮。舟頭さんの貌鼻追分を聞きながら風景を見ると、どこの世界にもない神秘的な空間にいる。空を見上げれば見上げるほど、高い岩は気が遠くなる。三代の栄耀一睡のうちにして——芭蕉の『奥の細道』で知られる平泉である。昔、都で栄えた土地も今では面影なく、静かなたたずまいになっている。金色堂は目にもあまるような光で藤原三代の富と力を物語っている。阿弥陀仏三尊が安置される下には、三代の棺がおさまられるという。少し気持ちが悪かった。

グリーンピア田老は、みんなバスの中で「わあー立派だ」と歓声があ

がった所で、私たちには、なんだかもうたいたいと思った。

三日目

龍泉洞

三年C組 田中一彰

修学旅行の三日目に龍泉洞に行った。「寒いなあ」と洞内へ入った瞬間感じた。中は、ウサギコウモリなど五種類のコウモリが生息していて、一センチメートル伸びるのに五十年もかかる鍾乳石や百年もかかる石筍などがある。さらに、世界に類のない水深百二十メートル、透明度四一・五メートルの大地底湖があった。洞内の長さは、確認されているだけで二千五百メートルあるが、流量量が毎秒二百リットルということから、少なくとも三十キロリットルあると推定されているという。洞内の清流は年中水温七〜十度になっている。中には、長命の水のように飲める所もあった。

外へ出ると、むっとして暑かった。出た所には、にじますが泳いでいる池があり、その横に洞内から出た清流と飲料水として飲ませてくれる所もあった。観光客で水を持って帰る人がいたので「持って帰って、どうするんですか？」と、聞くと「家でコーヒーやお茶に入れて飲むとおいしんだよ」と教えてくれた。

次に、地下道を通って、龍泉新洞科学館に入った。洞内は、旧洞より少し狭くなっていて、すこきざきざきして下はつるつるしていて、ころびそうになったことも、たびたびあった。特に印象に残っているのが、旧洞より白く輝いていた鍾乳石や石筍、清流の流

れる音であつた。

体験学習

三年E組 青山智哉

手作り村での体験学習で僕はわら細工の忍び駒を作りました。わら細工は人気がなくて教頭先生を含めて、たったの十八人、E組の四人が最高で、三人、二人、だれも入らないクラスもあつた。まあ人数が少ない分、とても親切に教えてもらえてよい作品が出来たと思います。指導してくれた人は三人でした。男の人が全体の指導をしてくれました。時間の関係で頭の部分は、もう作ってありました。最初の作業は、頭の部分にたてがみをつける作業で、とても複雑で上に曲げてから下に曲げるということを五回位続けて、次は胴体の部分に行くのですが、僕のベースでは、とてもついて行けず、そばに座っていたおばさんにやってもらいました。おばさんは、やはり慣れていて、すぐたてがみの部分が、できあがつてしまいました。そのおばさんのおかげで、みんなのベースについていくことが出来ました。しかし、早い人もいれば遅い人もいてバラバラになったこともありました。が、おばさん方のおかげで、早さが一定になってきました。足を作っていて「ああ、本当に難しいなあ。」と小声で言ってみたら「そうだよ。他の三つよりも難しいんだよ。」と言われました。難しい分、とても親切に教えてくれたし、手伝つてくれたので、これは良い作品が出来たと思えました。頭も足も胴体も作り終わり、あとは飾りつけだけでした。飾りをつけてから、も

う一度見てみると、さらにきれいで、わらから、よくこんなのが出来るなあと思えました。全体の三分の一位は手伝つてもらったけどとても面白く、手作りはいいものだ改めて感心しました。

チャグチャグ馬つ子

三年E組 菅原政志

修学旅行の三日目、体験学習で僕は、郷土玩具「チャグチャグ馬つコ」と呼ばれる、はにわのような形の木の馬を作ることになっていました。職人さんの説明が始まりました。

まず、白塗りのただの馬に、絵具を塗りつけます。口に黄緑——どうも真つすぐに塗れません。そこで一考して紙を当てて、その上から塗ることを思いつきましたが、紙にしみこんでしまつて、かえって逆効果です。また、それを直すために上からそつとなぞり、さらに太くなつてしまいました。この辺で僕の作業は、かなり遅れてしまいました。他、色々と塗り終えて、次は鈴の制作でした。鈴にひもを通して均等に結び、くぎで首に打ち込むはずでしたが、遅れていて、かなりあせていたために、かなりずれてしまいました。手綱、くら等をつけて完成しました。が、さらに絵具で手を加えてアレンジ・パーションにしました。たらこ口びるのこのチャグチャグには、「たらこーん」という素適な名前をつけ作業を終えました。

自然のすばらしさ

三年D組 皂 明子

修学旅行の見学した中で一番よかった場所は龍泉洞です。第一ホールは、天井もすこく高かったけど、水深にはびっくりしました。なんと百メートル近くもあったんです。水がとっても美しいのに感激しました。水にさわってみたんだけど、冷たくて気持ちよかったんです。エメラルドの淵は名前のとおりで圧倒されました。ずっと湖底を見ていると、すいこまれそうな気分になり、こわくなってしまうしました。なお奥に進んでいくと階段が、ずつとずつと上の方まで続いていました。初めは、それを上るだけで私は気分が悪くなってきました。ゆっくり一步一步上りました。上りきって一息。しかし、次に私を待ち構えていたものは、下ることでした。上りより数十倍こわいかなぜなら、上りは上だけを見ているので。そんなにこわくないが、下りは足元を見ながらである。もう下を見ただけで立ちくらみ々々心臓がドキドキするし、とってもつらかった。

私がこの旅行で、すばらしい、楽しいと思ったことは自然です。りんこの花は初めて見ました。草木は雨にぬれてピロードのようにつややかに見えました。ふだんは緑に対して美しいとかすばらしいとか思うことは、正直言ってありませんでした。岩手県の今回の旅行で自然のすばらしさを思い知らされました。特にグリーンピア田老に泊って、次の朝起きたとき、太陽がこうこうと海を照らして輝いていて、とっても感動しました。

演芸会

三年D組 瀬戸 優貴子



演芸会がやってきました。家ではレコードをかけて何回も歌い、そして踊りもつけ練習しました。でも、その結果は、上がってしまつてうまくいきませんでした。五番に出るのが三番と言われて、なおさら緊張しました。私は、はすかしがりやだったのです。このことで少し自信がつき大人になった気がします。自分自身を変えて見詰め直していきたいです。人前で話をするのが苦手なので、何でも積極的に行動してゆきたい。友達ともうまくやれるようにしたい。先生も、にこにこして見ていてくれて、うれしかったです。私がび

つくりするような応援で、意外でうれしかったです。残念ながら女一人で歌ったのは私だけだったので、さびしかったです。せめて後で踊ってくれる人がいたらよかったのと思いました。



四日目

マイナランド尾志沢

三年A組 浅倉 保

いろいろな所を見学して回ったが、一番面白かったのは、四日目のマイナランド尾志沢だった。最終日で疲れがたまっていたということもあったが、けっこうみんな楽しんでいただけたようだった。

ここは昔、鉱山として主に金を採掘していた所なのである。金山が衰退してからも銅山として日本の産業振興に貢献したそうだが、鉱山としての歴史を閉じ、観光鉱山としてオープンしたという所である。

バスに乗って細い道を通っていくと廃鉱となった建物が見えてきたので多少不安になった。しかし、その中はずいぶん色々なイベントが盛り込まれていて、けっこう楽しめる所であった。入ると、周りの壁には金のようなものが光っていたので鉱山ということを実感した。石をけずっている人形があり、鉱石採掘の様子がよくわかった。

こうして四日間の修学旅行も無事に終わり、楽しかったことばかり思い出される。本当にあつという間だった。



1・2年 学級紹介



一年A組

すばらしい我がクラス

田村 順子 先生

「……皆さん、今日から中学生ですよ。」と、言われた校長先生の言葉から、我がA組、男子二十二名、女子二十名、計四十二名と、僕達にかかせない田村先生とで、スタートしました。

我がA組は、明るく、楽しく、おもしろいクラスで、募金でも、学年、校内で一番という金額や、色々な大会などでも、皆で助け合う学級なのですが、けじめがない、人の話を最後まで聞かないという欠点も沢山あります。

我がA組は、他のクラスとは違うことが数えられないほどたくさんあります。それは、クラス全員が、大会だったら、その大会に向かって団結してとりくんでいるクラスであり、みんなそれぞれの個性をいかしているクラスなのです。また、ケンカ、反乱・革命を、おこした者はだれもないという平和なクラスであり、音楽の時間では、一番うるさい学級でもあるのです。まだまだ、良いこと、悪いことなど、沢山あります。

しかし、あと数カ月で、我がA組は、ばらばらになってしまします。それと一緒に、消えかかっていってしまうのでしょうか。でも、こんなすばらしいクラスは、どこへいっても、ないと言いつついいほどいいクラスです……

(目黒・蒲生 記)



一年B組

一年B組の顔

村井 貞夫 先生

一年B組は、よく先生方に、「ケジメのあるクラス」と言われます。

ケジメとは、例えば、休み時間騒いでいても、授業開始と共にすぐ静かになったり、授業中の私語も、先生の注意一つで、すぐに静まる事などです。

それは、この一年間を通して、クラスの一人一人がクラスの一員として、創りあげて来た全体の雰囲気で、言ってみれば、「一年B組の顔」なのです。

人間一人一人の顔が違いう様に、A組からE組まで、様々な「クラスの顔」がある筈です。そしてその「クラスの顔」は、一クラス四十数名が織りなす「みんなの顔」なのではないでしょうか。

だから、十月の文化祭の時、我がクラスの、合唱コンクール金賞や、ポスターコンクール、学級奨励賞の獲得は、一年B組一人一人全員の実力の賜物だと思います。

一年B組の一員として、それぞれ四十一人が一年間一緒に創りあげて来た「一年B組の顔」も、今年の春には、別れ別れになり、そして二年生になると、また、それぞれのクラスで、新しい「クラスの顔」の一員となるでしょう。

その時まで、あともう残り少ない期間ですが、みんなで、この「一年B組の顔」に、笑顔をやさずにしていたいと思います。

(栗山 記)



一年C組

翔け出せ！一年C組！！

武田 蓉子 先生

我が一Cは武田先生と男子21名、女子19名からなる学級です。担任の武田先生は美人（!?）で、とてもやさしいです。しかし、怒ると鬼のように変身しますが、それは私達に愛情をこめているので、余り怖くありません。

賞状は栄えある一枚ですが、あとはみんな大低三位なので賞状がもらえないのです。でも、マラソン大会で一位だったA君や、文化祭ポスターコンクールで金賞だったY君などと、個人での優勝が極めて多いのが特長です。

教室の雰囲気は明るく楽しいです。でも、明るいことが爆発し、うるさくなってしまうことが、しばしばあります。

C組の皆は一人一人、とても良い個性と性格、素晴らしい特長を必ず持っているのです。今、C組の仲間達は、目標へと、歩み始めたのです。

翔け出せ！一年C組！！

(柴田 記)



一年D組

戦国の世に生きる1D国の民衆

山本 忠行 先生

これから我が1D国について紹介させていただきますとうございます。我が国の將軍、山本忠行殿は氣も足も短くときには変わったことを言ったり変わった行動をとったりする。しかし、將軍はともて我々のことを思ってくれるお方で、ときには學問も教えてくれる。やはりきめる所はちゃんときめるのである。

我が国におけるテスト成績の戦では男の方が強いのである。なぜだかは拙者にはよくわからないのである。だから他の国と比べていいのかというところというわけでもなく最下位らしいが、今は大分成績があがっているだろう？

体育系の戦となると圧倒的に女の方が強く、すべて1位、男はすべて最下位という変わったクラスである。（しかし男も運動能力があるやつはたくさんいる。）

国内にはいろいろな個性を持ったやつがいる。たとえば、氣が短いやつとか、おもしろいやつなどがたくさんいる。しかしこれだけの民衆がいるのだから内乱もたまにおきることもある。が、一人一人国づくりにはげみ新しい能力をどんどん開発している。まあ、このままいくと我が国から、世界で活躍する優秀な人材、人のためにつくす立派な人物がたくさんでであらう……………。

（木村・大沢 記）



一年E組

目標めざしてがんばる1E

国田 礼子 先生

四月に四十一名で、スタートした、わが一年E組は、途中二名の友達が転校していき、今、三十九名です。担任の先生は、英語の国田礼子先生です。先生は「授業中が勝負だよ」というのが口ぐせで、授業中に、しっかりと勉強しないと、家に帰って復習しても、わからないところが多く、やる氣がなくなると言います。「明るく積極的に何事もこなす学級」という学級目標に向かってがんばっています。しかし授業中には発言する人が少なく、雰囲気も静かで明るいというよりはむしろ、暗いムードです。ところが休み時間とか、給食時間になると、元氣がでて、まわりが急に明るくなり、楽しい雰囲気になります。

中学校に入ってもなく、体育大会があり総合で二位に入賞し、マラソン大会では女子が特になんばって、総合優勝しました。

文化祭では合唱コンクールに入賞できましたが壁新聞コンクールは二位になり、苦勞した作品が入賞でみんな喜びました。最後の球技大会では、男子がサッカーに挑戦し、PK戦で、おしくも負けてしまいました。学級対抗があると、皆で一致団結し、がんばる力があるので、このファイトをもってあと三ヶ月足らず、勉強に、運動にがんばっていきたいです。

（岩根・清水 記）



二年A組

模範的クラスのクラス紹介!

高橋 一也 先生

ハローエブリバディ。お元気かい? A組のクラス紹介しますね。うちのクラスは美男子(?)二十名と美女(?)二十二名のたしたら四十二人の成績優秀、品行方正、容姿端麗の三拍子そろったまるで全校の模範になるようなクラスです。うそです。と否定してしまったら話が続かなくなつたので次の話題にしましょう。クラス紹介といえは出てくるのが「我クラスの賞状じまん」。いや、別に賞状が一枚もないというわけではなく、数が少なくて一位がないというだけさ。合唱コンクールは女子がはりきってたわりに結束が……。

さて(と、気まずくなつてきたのでこういう話はやめた。)ここでこんなクラス紹介なんかやめたい。と思つたのにあと半分もあるじゃないの。というわけで、A組の休み時間はすごい。走り回つてやるやつとか、歌つてやるやつとか、中には踊つてやるやつなんているのいる……。そのせいか(どうかは知らないけど)教室の戸はちゃんと閉まらないままだし、みんな休み時間で体力をつかいはたしてしまつたらしくって授業中は異常に静まりかえつてしまつてさ。すごいでしょう?(なにがだつての)。いやいや。そろそろこんな話はおしまいにしましょう。さよなら。の前に、A組の担任はいわずと知れた高橋先生です。それじゃ本当にさよなら。みなさん。P・S 本当は、模範的なクラスなの。信じてくれ!

(三浦 記)



二年B組

二年B組のススメ

上田 陽子 先生

みなさんお元気ですか? おっと、まあ、そうあせらずに……。今ちゃんと二年B組のこと教えてあげるから……。

とはいふものの、何から話そうか(いや、書こうか)。そうそうこの間なんか授業中に窓を開けていつみんなが気付くか、なんてこととしてた。(ちなみには外は雪でした)それから先生のものまねや友だちのあだ名なんかをつけるのにはやつたし、(それらを都合によりお教え出来ないのが残念!)でも私達、いたずらばかりしてわるわけじゃない。それを証明してくれるのは転校していった友達。みんな泣きながら私達二年B組との別れを惜しんでくれた。そんな時「二年B組は、泣いてもらえるだけのクラスなんだ……」

つていつも感じる。あたり前のことかもしれないけれど、これはとても大切なB組の良いところ。他にも良いところといえば、美男美女ぞろいとか、知性教養があふれてるとか……。でも一つ絶対に言えるのは、二年B組は他にはないとても楽しいクラスだつてこと!

私達は二年B組として出会ってから特別事故もなく、すくすく成長しています。お世話になった先生方、そして、これからお世話になる先生方、どうかいつまでも、二年B組を見守って下さい。私達もこれからも、もっともつとがんばっていききたいです。

(山根 記)

二年C組

THE CHEERFUL CLASS



吉田 孜 先生

これから、2Cの学級紹介をしたいと思う。

我々2年C組は、男子二十名、女子二十二名、計四十二名+担任の吉田孜先生で構成されているクラスです。

まず、吉田孜先生の特徴を紹介しよう。

先生の特徴というと、おでこから多少ハゲていることと、もみあげが、異常に長いことだ。

次に学級全体を紹介していくと、自慢というのは、壁新聞コンクールでとった一位の賞状ぐらいなものだ。

学力の方は、どうかというと、普通だし、運動の方に行くと、他のクラスよりおとろえてしまう。

だが、このクラスの特徴というと、休み時間の明るさと、授業中の暗さがはつきりしていることだ。(特に○×先生の授業の時に)

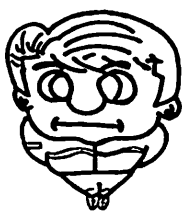
しかし、元気だけなら、どこのクラスにも負けないくらい元気があると思うし、何でも、やろうとする心があれば、ものすごい力を発揮して、どこのクラスよりも、すばらしく、まとまりのあるクラスになると思う。

「THE CHEERFUL CLASS」

(鈴木 記)

二年D組

個性あふれる明るいクラス



古館 勉 先生

我がクラス、二年D組は男子二十名、女子二十二名、計四十二名、一人転校して来て四十三人になり、古館先生が担任でスタートしました。体育専門の古館先生は若さあふれる活気にみちた授業で生徒たちにやる気をおこさせていきました。

D組は初め、物静かなクラスで古館先生の話にもあまり反応しなかったが、みんな一人一人がクラスになじんできて、新しい友達もできはじめてきたころ少しずつ物静かとは「ウラハラ」に明るくなるさくなつていき、月日がたつていくと先生方におこられる日々が続いていったのでした。そのおこられるほどの明るさがまたD組のとても良い所(?!?)なのではないかと思えます。

しかし、そのうるささとは反対にみんな協力的があり委員会活動や班活動、係などの仕事はきちんとやり、委員会にもみんな一人一人積極的に出席していて、クラスの提案などもよく発表してるそうです。

また、クラス全員の個性もよくあらわれていて中には、いつもみんなの笑いをとってうけている人や普段から明るい人、知識の豊富な人、かしこい人などの人達で成りたっています。

このように、いつも活気にみちて個性があふれ明るいD組一人一人が自分自身をよく表わしているということで学級紹介を終わりたいと思います。

(志村・原田 記)



二年E組

松山家物語

松山 元彦 先生

いづれの 御時にか、美男美女 あまたさぶらひけるなかに、いとときめきたまふ クラスありけり。

そのときめいてるクラスっていうのは2年E組だということを君は知ってるよね！その光り輝く様といったら〇〇先生にも負けなぞ。（あつ、わかつちやったかな？）それぢやあ、我E組の実態を知っていただこう。ふおつふおつ春は美男・美女のお見合から始まり、みんな静かなクラス：と思つたが：体育大会で入賞できなかったことがE組を徳川家康に変えたのだつた。石田家や豊臣家をちぎっては投げちぎっては投げ天下をとつたのだつた。はつはつはつではつ恒例の賞状自慢だよ。（気は進まないが自慢しなくてはならない賞状が多くて困るぜ、ふつー7枚あります！そのうち6枚が一位なんですわ。女子が2位とつた時、男子にいじめられたんだよお。では、合唱コンクールのことでもお話ししましょう。若く美しい美奈子先生を中心に盛り上がり、みんなアイスをめぎしてがんばつたのでした。（くいしんぼうな私達）思い起こせば、練習量は少ない方だつたが、その分陰で盛り上がったといえるな。そして、激戦の末金賞をたまわつたのでした。（金賞と聞いた時、耳を疑つた）殿も喜んで逆立ちなさつたとかい。——このやふな あやしクラスありと言ひ伝える。

古文「松山家物語」による。

（玉川・酒井 記）



宿泊研修旅行

…道南の歴史、自然にふれて…



一日目

厚沢部・江差をまわって

私達二年生は、六月二十二日・二十三日の二日間にわたって、江差町方面へ宿泊研修に行きました。バスは各クラスに一台ずつだったので、十分にゆつたりとバス旅行を過ごすことができました。集団で旅行するのは、小学校の修学旅行以来だったので、みんなとてもわくわくしていました。

そんな私達が一番初めに行った所は、厚沢部土橋森林公園でした。森林公園の中は、自然のにおいが沢山してとてもさわやかでした。木には一つ一つ名前がつけられていて、案内のおじさんが色々と教えてくれました。そこで各自が持ってきたお弁当を食べました。

次からの見学は、A組・C組、D・E組と分かれて見学しました。A組・C組は、郷土資料館・中村家・追分会館・かもめ島、D・E組は、追分会館・郷土資料館・中村家・かもめ島の順序で見学しました。

郷土資料館・追分会館・中村家は、江差の生い立ちや歴史がとてもよくわかりました。箱館戦争の時に使われた開陽丸の写真、江差追分のテープ、江差町の歴史を紹介したスライドなどがありました。特に私が感動したのは、中村家でした。中村家というのは簡単に云うと、大橋卯兵衛が明治初年に建設したと伝えられ、ニシン漁が下火になった明治三十年代に中村米吉にゆずった家なのです。

それから、かもめ島に集まって、記念写真を取り、ジュースやア

イスクリームを食べました。

ホテルに着いてからは、一日の疲れがどつと出て、ぐったりしている人もいれば、又、元気があまって騒いでいる人もいました。夕食が終わってから、江差追分のチャンピオンが、私達に『江差追分』を教えてくれました。いざ歌ってみるととても難しく、なかなか上手にできませんでした。

こうして私達の宿泊研修の第一日目が終わったのです。

(登坂 記)

二日目

貴重な体験

前の日に、先生から「時間前に起きるな、しゃべるな、出歩くな。」と言われていたので、六時前に起きて出歩く人はいなかったようです。六時になると、起床・洗面ということで、洗面所はだいぶ込み合いました。六時三十分には、全員駐車場に集まってラジオ体操をやりました。こうして、研修旅行の第二日目が始まりました。

それから、地引き網の実習に向かいました。そこは、旅館からそれほど遠くない場所にありました。僕たちの組は、一班だったので最初に網を引きました。引いているときは、どんな魚が掛かるのか期待しながら引いていました。どんどん網を引いていっているのに、ほとんど何も掛かっていません。まさかこのまま何も掛からないのでは、と思っていると網の終わりが見えてきました。そこには、ビ

チビチとした小さな魚やエビなどが合わせて三十四ぐらい網に掛かっていました。気持ち悪がつて魚を触ろうとしない人もいたけれど、面白がつて魚をつかんでいる人もいました。僕は、もう少し魚が掛かるんじゃないかなと思っていたので少し残念だったけれど、一匹も掛からないような悲惨な事態にはならなかったのではとしました。旅館に帰り、朝食を取って、部屋の整理をしたあと、次の目的地の逆川公園に歩いて向かいました。しかし、その距離の長いことには、びっくりしてしまいました。十分ぐらいで着くと思っていたのに、かなりの時間がかかりました。逆川公園では、スケッチをして終わりました。帰りは、逆川公園から直接バスに乗り、函館に向かいました。今回の研修旅行でみんなも地引き網のような貴重な体験ができてよかったんじゃないかなと思います。疲れたけれど、とてもいい研修旅行だったと思います。

(吉江 記)



座 談 会

— テーマ —

五稜三訓・交通安全宣言を 見直そう!!

五 稜 三 訓

1. だろこりあいさつ 明るいうちへ
2. 進んで清潔 きれいな学校
3. 自主的判断 みんなで協力

(59年12月1日 生徒会制定)

* 交通安全宣言 *

わたしたち五稜中学校生徒会は、事故にあわない、事故をおこさないようにするため、次のことを実行します。

- ★交通ルールを守り、一人ひとり気をつけます。
- ★道路を横断する時、左右を確認します。
- ★自転車の2人乗りなど、危ない運転はしません。

以上、宣言します。

昭和61年10月2日

函館市立五稜中学校生徒会

高橋

僕達が入学した時は、先輩達がいろいろと取り組んでいたのですが、今は、五稜三訓自体を知らない

司会
それではこれから生徒会座談会を始めます。
今回のテーマは「五稜三訓・交通安全宣言を見直そう」です。
まず「五稜三訓」についてですが、五稜三訓は五稜中の生徒として最低限度守らなければならないもので、以前の先輩方が築き上げ、私達の校風として受け継がれてきた立派なものでしたが、現状を見てみるとあまり役立っていないのではないのでしょうか。これは生徒一人一人の自覚の薄れもあると思います。が今の五稜三訓の状態についてどう

人がいるので、好ましくない状態です。

山形 高橋君の意見に同感です。あまり徹底されてるとはいえないので、新総務の人達には、これを実現させてもらいたいと思います。

菅原 自分の学校の最も大きなスローガンさえ知らない人が多い、このような状態は改善すべきだと思います。

酒井(真) これは、先輩方が残してくれたすばらしい校訓なので、引き継いでいきたいです。ですから、今の状態は、とても残念です。

司会 それではまず、五稜三訓の中の「にっこり挨拶 明るい一日」についてですが、現在は、朝に週番の人達や先生方が、玄関に立ち挨拶をしています。が、はたして、生徒達は挨拶をしているのでしょうか。

佐藤 先生方や週番の人達が声をかけてくれています。ですが、進んで挨拶する人もいますけど、無視したりして挨拶しない人も多いです。この状態を、なんとかしなければいけないと思います。

藤田 僕も佐藤君に同感で、わずかな人だけではなく、大勢の人に挨拶してもらいたいです。

酒井(真) 朝、明るく挨拶されると、気分もよくなり明るい一日が過せます。小さなことかもしれませんが、それが実現されれば快適な学校生活が送れると思います。

司会 では、今の状態に対して、改善策はないのでしょうか。

菅原 前期に、協議会に出た時に、他の学校では「オアシス運動」など行っており、五稜中学校でもそれを実現していけばいいと思います。

司会 「オアシス運動」とは、具体的に、どのようなものですか。

菅原 「おはようございます。」「ありがとうございます。」「失礼します。」「すみませんでした。」の四つの頭文字をとって単語をつくり、それをスローガンにして徹底させようとしたものです。

司会 新総務のみなさんは、どう思いますか。

栗山 やはり「オアシス運動」として、新しい形で運動していくのはいいと思います。それに、具体的な例もでて、やりやすいと思います。

司会 「オアシス運動」などの新しい企画を設けて、「にっこり挨拶 明るい一日」を実現していただきたいと思います。

次に「進んで清掃 きれいな学校」に移ります。これでは、朝の清掃などを行っていますが、これについてはどう思いますか。

厚谷 整美委員を中心に、一生懸命やっているのは、とてもいいことなので、これからも続けていってもらいたいです。

酒井(興)廊下などにゴミが落ちていても、気づかないふりをして、先生に言われてから拾う人がいるので、一人一人が気をつけてほしいと思います。

石田 生徒会と整美委員が協力しながら、実現していくようにすれば、より徹底すると思います。

佐藤 清掃にも、挨拶と同じことがいえると思います。やらざれるという気持ちがあればいつまでたっても守れてるとはいえません。自分から進んで、きれいな学校にしようという思いが大切です。

司会 このことについては、大体が守れているということなので、あとは、生徒の自覚が足りないということなので、もっとアピールしてほしいと思います。

次に「自主的判断 みんなで協力」に移ります。これについては、なかなか具体的な例があげにくく、生徒のみなさんも最も守られていないと考えているんですが、どう思いますか。

三国 具体的な例があげられないだけに、やはりここは一人一人の自覚が必要です。

石田 これは、心がけ次第でどうにでもなるものなので、一人一人が気持ちをきちんと持ち、三国君が言うように、自覚していくことが大切だと思います。

酒井(興) これからの生徒会のよびかけにかかっていると思います。私達から、一生懸命働きかければ、生徒のみなさんも答えてくれると思います。

司会 新総務のみなさんは、これからのよびかけを、具体的にどのようにしていきたいですか。

佐藤 生徒会の僕達からよびかけていかないとだめです。朝、登校してくる生徒に挨拶をかけるとか、校内外の清掃を積極的に行わなければなりません。

司会 五稜三訓には、まだまだ改善点があるようなので、新総務の働きに期待したいと思います。

では、最後に「交通安全宣言」のことに移りますが、交通安全宣言のことについては、三年生がよく理解されていると思うので、出された当時のことを、参考までに聞きたいと思っています。

高橋

一年生の時出されたんですが、その時は、道路で交通標語を配ったり、体育館の横の所に看板を出したり、全校集会で大きな行事として取り扱っていました。

司会

現在の状態では、この「交通安全宣言」がだされ、体育館の横に看板が出ていることなどを、知らない、または、忘れていて、という人が多いんですが、この状態についてどう思いますか。

菅原

生徒が全く意識していないどころか、その存在さえ忘れられつつある傾向は、非常にまずいです。

酒井(奨)登下校などに、信号無視や、無理な横断をしてる人を見かけますが、たいへん危ないと思います。せっかく交通安全宣言があるのですから、是非守って、信号無視、無理な横断はやめてほしいです。

司会

では、今後、何を重点的にどのようなことをしていけばいいでしょうか。

高橋

交通安全宣言を知らない人が大勢いるので、まず、生徒のみなさんに、交通安全について理解を深めてもらうことが必要です。例えば、新総務の人達には、交通安全週間をつくり、標語をつくったり、全校放送でよびかけていけばいいと思います。

厚谷

どの活動にしても、生徒会だけで活動するより、専門委員と協力しながらやっていけば、みなさんも意識して守ってくれるようになるし、専門委員会との密接もはかれていいと思います。

石田

五稜三訓・交通安全宣言を新たな課題として、一からやりなをしてはどうでしょうか。五稜三訓等の意義を考え、みなさんにもわかってもらえるよう、生徒会だよりや放送を使ったりと、工夫して、これから活動していったらいいのではないのでしょうか。

佐藤

今出ました、たくさん意見を参考にして、新たな改善作をたてて、積極的にアピールしていこうと思います。

司会

交通安全宣言についても改善すべき点はたくさんでした。最後に、この座談会をふりかえてみると、やはり旧総務の力不足が目立ったようです。

これから新総務の方は、一年間の活動が始まりますが、今日の座談会で出た事を良き教訓としてしっかりやってほしいと思います。もちろん、旧総務と新総務の協力も必要ですし、何よりも生徒のみなさんの協力が最も必要なのです。これから、新総務の方たちと一致団結してよりすばらしい五稜中学校を築き上げていってほしいと心から願っています。それではこれで生徒会座談会を終わります。



出席者

一年			二年			三年		
酒井美由紀	三国洋	栗山大輔	石田巳代子	酒井真紀	藤田成一	佐藤充彦	山形重雄	厚谷理香
								高橋秀司
								菅原政志
								斉藤裕久

品評賞入ホーやぐにーやスホ内対

留 奨 材 中 年 8

第28回

躍進

文化祭

五稜中学校

10月6・7日

校内ポスターコンクール入賞作品

3年 中 村 慶 昭

文苑

◎感想文

◎意見主張文

(弁論最優秀作品)

◎俳句

◎短歌

◎川柳



三年の部

「鼻」における自尊心について

三年 村上 奈緒子

この物語は、鼻の長い禪智内供という僧が己の強過ぎる自尊心故に外見的醜さどころか内面的な弱さまで曝け出してしまい、利己主義な傍観者に翻弄されるという実に読んでいる人間の肺腑を刺る様な作品だ。

私自身、この愚かな僧の中に自分を見る様な思いで、共感する所も多々有るが、それと同時に客観的に見た高過ぎる自尊心という物が何程、滑稽な物かを目の辺りにした。

内供という人間にとって、「大きな鼻」、

「長い鼻」と言われ、その度に傷つく事、或いは傷ついたらと相手に覚られる事は、同時に自分の弱点を知られたという事と等しい。弱点は、(善意的解釈に限るが)見方によっては、相手の考えている事、悩んでいる事が判

かり、相手を知るうえで中々有力な手掛りとなるが、内供はそれを知らず、只管傷つく事を恐れ弱点を守った。

人間は自分の弱点をすばり突かれた時、少なからず動揺すると思うが、動揺するという事は、弱点を曝け出す事に繋がるから、自尊心の強い人間は平然を装う。もちろん内供も内心、酷く自分の鼻を気にしながらも、それを人に知られる事を、非常に嫌がった。だが平然を装う事は、本当に内供にとって有益だったのかと、私は考えてしまう。確かに、表面的に彼を見た人は、「何て強い人なんだろう。自分の気にしている事を言われても、平然としていられるなんて。」と、感嘆するだろう。だが、矢張り見抜く人もいる筈だ。その人は、平然としている内供を見て、「気にしているくせに。格好つけてみっともない。」と批判的に思うだろう。どちらにしろ、気にしているという事は、誰でも最初から知っているという事を内供は気付いていない。だいたい、あんな大きな鼻を気にしない者はいないと私は思うのだが……。

内供の鼻は、彼の弟子によって小さくなった。ところが、彼の周辺の人々は、前よりも露骨に彼を笑った。内供は解釈に困って悩ん

だが、私は当然の事と考える。何故なら、自尊心の高い人間は、常に自分を守っているから(逆にいえば、人一倍傷つく事を恐れているから)中々、人に心を開けない。つまり、人を自分から拒否する傾向が強いので、孤立しやすいのではないかと思う。この「鼻」を脱むにつけて、内供には少なくとも、その様な要素が有るのが伺える。そこから考えると、内供の日頃の態度が一つの理由として浮かんで来る。普段、もっと尊大な調子がなかったならば、周囲の人々も素直に鼻の小さく為った事を喜んでくれたに違いない。

もう一つ大きな理由が有るのを見逃せない。それは、内供が鼻を小さくしたその行動自体である。今まで平然を装って来たのだから、これからも、表面だけでもこまかして行けば良い物を、鼻を治療したという事は、それこそ、治療に踏み切る程、気にしていたという何よりの証拠ではないか。それにも気付かない内供は、誠に愚かだ。

鼻の小さくなった内供を人々が嘲笑った理由がもう一つ程、考えられる。作者芥川龍之介も作品中で記しているが、それは、傍観者の利己主義である。他人の不幸に同情はするが、一旦不幸な境遇を脱すると、逆に物足り

なくなり、もう一度、不幸に陥れなくなり、

遂にはそれが消極的だが敵意に変わる。これ

も可成り内供を悩ませた。そしてはつきりと

ではないが、この傍観者の利己主義に気付き

不愉快になる。しかしこの不愉快という感

情の理由が傍観者の利己主義だけでなく、自

公の普段の態度が密接に関わっている事を、

内供は気付かない。そして鼻を小さくした事

によって、益々傷つけられた自尊心を回復す

べく、又、鼻が大きくなる様、願うなぞ、愚

かもここまで来れば立派ではないか。結局は

傍観者の利己主義に翻弄されているだけだ。

しかし内供には、人の心を読んで悟ったり

自分の行動に否が有ったとは夢にも思わない

だろう。又、心を読み取れる程の器量もない

筈だ。再び大きくなった鼻は、又、人々の中

傷を治るだろう。その時、内供はどうする

のだろう。いつか、内供が自分の高過ぎる自

尊心に気付く日が来るのだろうか……。そし

て私自身も内供と同じ道を確実に歩みつつあ

る事をいつ気づく事が出来るのだろうか……。

二年のぶく

“ヒロシマへの旅” を読んで

二年 片岡 雅子

一城の友人、中村君を通しての、広島への旅立ち。そして、この地で新ためて思い知らされた。生命の尊さ。

今から四十一年前の「時」に刻まれた、あの日の一瞬の閃光。——昭和二十年、真夏の八月六日、午前八時十五分。リトル、ボーイ、尊い何万もの生命をうばった——。

一城のおば、八重子おばさんもまた、この地での、原爆体験者であり、今なお、後遺症に苦しめられている人だ。

語りつがれている以上に、暴力的で恐怖にうずまいた悲惨な日々。その中で、人として生きる氣力を失った人達がたくさんいたのではないだろうか。生きのびたくても、力つきて、苦しみながら死んでいった人がどれだけいたことか。この、地獄のような周囲の中、自分の親を探し、または家族を探し、家族の死に目にあう人など、さまざまではないだろうか。今日、平和に暮らしているようだが、被爆者自身の目で見、聞いたしこりは、一生

その人からとりのぞくことのできない、深い溝であろう。

「何と悲しい思い出であることだろう。」

私は、一城と同じ気持ちであるし、今まで以上の恐怖を感じずにはいられない。この様に恐ろしく、生命の、人間の生き方を変えた壮大な英知の結晶、原爆。地下に穴をほりすすめてものがれられない。建物に身をひそめても、のがれられるものではない。それは被爆者を通じて、私達人類がよく知っているはずではないだろうか。

平和に包まれ、自然の生きる理想の世界。

そして緑や花、自然がいつぱいの環境。そんな中で、人を愛し、友を愛し、命を磨きあげながら生活していったら、どんなにすばらしいことであろう。どんなに、一日一日を平和に暮らせることだろう。未来を創りあげてゆく一人とし、また、この大地に生きる人として、私は一城とともに感じ得ます。この残酷ともいえる、八重子おばさんの体験を。

いま、私達は八重子おばさん達の、心のしこりをいやってあげるとともに、未来へ、八重子おばさん達の体験を生かし、みんなの夢の、本当の「平和」を求めなければならぬのではないだろうか。

一城は、今回の旅で、「平和」を求めているのかも知れない。形ではなく、人の心の平和と愛を。

一城は八重子おばさんの気持ちを、心の底まで、さつしてあげることができたでしょう。

それも、中村君を思う友情の心が本物であるから、ふつうの思いやり以上の愛があるから。大切に思う友達を上げます姿があるから。この友情で、身も心も沈みかけていた中村君を包みこみ、立ち直らせてあげたのですもの。

この物語で私は、被爆者の苦しみ、原爆の恐ろしさ、そして一城のようなすばらしい、本物の友情を学ぶことができ、自分にプラスになるものを感じ得られたような気持ちです。

これらを、これからの自分の人生に、あゆみ生かしてゆきたい。そして、この地球から核兵器がなくなるまで、赤い炎のゆらぎたつ「平和の火」を、一日でも早く消しとめ、本当の平和をこの大地にとりもどしたいです。



へ一年の部

僕は、発展途上人間

一年 後藤 秀 樹

大昔、大空は憧れの的だった。月は神秘だった。まがの世界でしか、コンピュータはなかった。物を言い、物を考えるコンピュータは、「二〇〇一年宇宙の旅」の映画の中で、おどろくべきことだったという。

今はどうだろう。当り前にコンピュータが家庭の中に入りこんで、当り前な顔で飛行機に乗り、一日の間に遠い所を往復したりする。科学はどんどん、すばらしい勢いで発展をとげる。

待て！。人間はどうだろう。僕はもうどうだろう。僕は、六年の春から中一の春で、十一センチのびた。体重は、六キロ増えた。すごい発展だと、胸をはって、ふと思うーこれが発達かー

ぼくは、今年の春に中学生になって、英語を習い始めた。まだ、ほんの少しだけだ。

僕の家に、毎年、ライオンズクラブの交換留学生が来る。今年、ロスアンゼルスからチャリーが来た。チャリーは、日本語を話せない。だから、ぼくは必死で、辞書を片手に話しかける。「ごはんだよ」「遊びに行

こう」「ボーリングをやらないかい」どうしても通じない時は、辞書を見せる。そうしているうちに、何となく親みがわいてきて、笑いが出てくる。ボーリングを楽しんで、いっしょに喜んだり、残念がったりする。そこでぼくは思う。「英語なんてわかんなくて楽しいや。」それから、お茶の時間になり、アメリカの話や趣味の話になる。とたんに辞書をひき、必死になり、ぼくは、思いなおす。「やつぱり英語を話せたら楽しいな。」こんなことのくり返しをしているうちに、チャリーは帰ってしまった。

どうしてこんなに勉強を、いっぱいしなきゃいけないんだ。そう叫びたくなる日、ぼくは、思い出すことにしている。「英語が話せたら、もつと色々なことを聞けて話せたのにな」ということを。

そうだ！ぼくは発展途上人間なんだ！身長が伸びたように、体重が増えたように、人間として何かが増えていかなきゃ。それは、知識かもしれない。感情かもしれない。今の僕には、それは、はつきりとはわからない。けれど、ぼくにも、いつか夢だったことが、実現できる時代が来る。「子供だから」と言う言葉で、大人も、僕をおさえないでほしい。二十世紀のぼくたちは、小さな子供でも、二十一世紀へむけての発展途上人間なんだ。

自分を見つめ直して

三年 福山 麻紀子

最近の新聞、テレビのニュースの中に、「中学生が両親殺害」と大きく報道されたことをみなさんは知っていますか。

私は、この事件を新聞やテレビのニュースを通して知りました。この世になった一人しかいない両親を「なぜ殺さなければならなかったのか」「そうしなければならなかったその中学生の心を、私は知りたいと関心を持ち始めたのです。その中で感じたことがあります。この中学生は、両親や祖母から毎日毎晩のように「勉強しろ、勉強しろ」と口うるさく言われ、成績が下がるとお小遣いをもらうこともできませんでした。けれど普段私達の家でも、一度や二度このようなことは実際に誰でも経験していることと思います。しかし、この中学生の心の中にあつた本当の理由は、両親に対する日頃の不満、自分をわかってくれない愛情不足、不信などが両親殺害へと走った一番の理由だったのではないのでしょうか。ちょうどその頃、私達と同じ年頃の由香里と

いう主人公が非行に走り、いくつもの苦しみを乗り越え立ち直るまでの体験が書かれた一冊の本、「積木くずし」を読んだのです。

一人娘の由香里は小さな時から病気がちで入院を何度もくり返し、両親も自然に過保護に育てたことから、由香里のわがままもしだいにエスカレートしていきある事件をきっかけに、外泊、たばこ、シンナー、家庭内暴力へと非行の道に走っていったのです。

私達も、毎日の学校生活の中や家庭の中で、いつどんな小さなことが原因で由香里のようになるか知れません。

例えば、身近な友達との間での仲間はずれやいじめの問題、外見だけで人を決めつけ判断する大人たち、子供の悩み、苦しみをわかってくれようとしていない両親。大人たちは、何もかも自分のすることが正しいと思いこみ、決めつけ、それも頭から言い聞かせようとするとところがあるのではないのでしょうか。私も時々母と言い争いをすることがあります。頭からガミガミいきかせようとすると母に私も素直になれず、すぐ口を返し反抗をします。けれどその後味は、とてもいやなのです。その時は、母もきっと私と同じようにいやな思いをしているはずです。

みなさんにも、そのような経験はありますか。私は三人姉妹の末っ子で小さな時から

わがままに育ちました。その欠点を反省し、今では、私の小さな体験から思いやりを持つ心をもてるようになりました。また、両親にも素直な気持ちで接することで、学校での悩みや苦しみを話し合い相談することも以前より多くなりました。自分の心の中にある悩みや苦しみをうち明けられる人がいるということは、とても心強くうれしいものです。非行に走る人は、自分の心をわかってもらえないという気持ちから、だんだんさびしくなり、荒れ果てていくのではないかと思います。始めにとりあげた、「中学生の両親殺害」は絶対にあつてはならないことです。

この中学生が、問題の解決として選んだ方法がいかに間違っていたか、後になって深く反省することができても、一生苦しい思いをしなければならぬのはこの中学生なのです。そのことを考えると、とてもかわいそうです。私達一人一人は家族全員から愛されていることを忘れてはいけません。

子供の幸せを願わない両親など絶対にいいはずですよ。そのためにも、今、私達は中学生としてなすべきことに目標を持ってがんばることが自分を見つめ直すことになると思います。

中学生の自殺について 思ったこと

二年 高 松 奈 緒

九月一日の新聞の記事の中に、こんな見出しで書かれている記事がありました。

「始業式の朝 自殺相次ぐ」

この見出しに続いて三つの記事がありました。その中の一つを紹介しますと、

「一日の朝、愛知県豊田市のあるマンシヨンの少年で、マンシヨンの六階から七階への階段踊り場に少年の靴がそろえて置いてあったことから、飛び降り自殺をしたとみて、両親や学校関係者から動機について事情を聴いている。」

この記事だけでなく、他の二つの記事を読み終った時、私の心の中にいくつもの気持ちが浮かんできました。一日で三人も死んだという驚きと悲しみや、疑問の気持ち……。彼はなぜ自殺なんかしたのでしょうか。その理由はいろいろ考えられると思います。

まず、必ずといえる程、誰もが友人関係について、浮かぶのではないでしようか。他にも勉強が遅れていた、悩みをかえこんだまま、友達あるいは先生や両親に相談で

きなかったりと……。

しかし、彼は自殺をしなければならぬ程に深い理由があったのでしうか。他の人が聞いて、同情できるような理由だったのでしうか。

おそらく、そうではないと、私は思います。誰もがその理由に反論をもつでしう。「そのくらいで自殺することなんかなの……」と。

死ぬことは簡単です。だけど、そのことを誰一人喜びはしません。悲しみだけが残ります。

私達はまだ何十年という長い時間を生きていかなければなりません。今はまだ、長い時間ほんの少し動いただけにすぎません。何をそんなに急ぐのでしょうか。

この三つの記事を読んで、三人も自殺したということが私には非常に残念でなりません。でした。

もしかすると、私達のまわりでも自殺した人と思っている人がいるかもしれません。でも、その人をそのような状態に追い込んだのは、私達なのではないでしうか。

何気なく言った一言が、友達を傷つけていたり、誤解をうけるようなことを言ったりしているのかもしれない。私達はそれに気づいていないだけなのです。

私自身これからは、もっと友達や自分自身を、大切にしていかなければならないと思うと同時に命の尊きについて教えられました。決して粗末にしてはならないということを……。

皆さんはどう思いますか。

いのち

一年 筆 村 香 奈 恵

みなさんは、命とはどのようなものか、考えたことがありますか。

私は、考えたことがあります。といつても深刻に、というわけではありません。しかし人や動物、いえ命あるものが死ぬということはある前事であり、けれど大切な意味をもつ事だと思うのですがどうでしうか。

私にとって今思うとどうしてだったのかからなかったことがあります。それをみなさんに聞いてもらいたいと思います。

それは、私が小学校に入学する一ヶ月程前のことです。私のおばが亡くなったんです。死因はガン。私は奥の部屋へ連れて行かれました。そして、冷たくなったおばの前にすわらされました。おばの口からは血が流れて

いました。涙が流れるわけでもなく、特別な「悲しみ」の感情があるわけでもなく、ただおどろくだけ、ただそれだけでした。

そして、お別れの日、みんな泣いていました。私はおばに何度も何度も、お世話になったのに、とっても優しくったのに、いろんなことを教えてくれたのに涙一つがきなかったのです。今になってやっとそのころではわからなかった気持ちがわかりました。大人たちが流していた涙は、自分にとって大切な人を失った悲しみだということを。

しかし今、命を何とも思っていない人がいます。よくTVなどのニュースにでてくる、殺人、自殺そしていじめなどです。殺人とは人の命をうばうこと。すこし前に、両親、祖母を包丁で、めったざしにしたという、みなさんの記憶にも、真新しい、かなり話題になった事件がありました。この事件は、いろいろな見方ができます。ある人は、親が悪いといい、ある人は、どんな理由があろうと親を殺した子が悪いといえます。初めはそういう意見に別れていました。私は子供の方に同情というのを持っていました。報道では、親に幼いころから、しかられてばかりいたとか、だけど、真相がはっきりになるにつれて、腹

がたってきました。だってアイドル歌手のために、三人もの命をうばったのです。自分の欲望のために、しかし、それが本当なのかどの意見が本当なのかはわかりません。

次にいじめのことです。いじめは自殺に繋がっている場合もあると私は思います。全てとは言いません。しかし、いじめ。害を加えることによって、登校拒否をしたりします。両親や友人にもうちあけられずに、そして、それにもたえきれずに死を選んでしまう。そう、自殺です。害を加える側は、直接関係ないかもしれません。けれど、それは立派な殺人なのです。命というものを考えない人がする行動なのです。

人間だけではありません。他の生物に対する人間の態度にしても、そのことがいえます。地球にいる生物は、人間だけではありません。極端に言えばバクテリアだってそうです。しかし人間は自分がえらいと思ひこみ、自然を平然として破壊します。それだつてれっきとした殺人行為に匹敵するものではないでしょうか。

最近、函館山展望台が新しくなりました。この展望台前より大きく立派になりました。けれど自然はどうなつたでしょう。当然、破

壊されました。よくわからないけれど山はけずられるだろうし、したがって、木も切りたおされるでしょう。たしかに立派になったおかげで観光客も入り市の活性化には、役だったかもしれません。でも、私は残念でなりません。自然を壊せばやがては、人間の破壊につながってきます。ある地域でこのようにして砂漠化が進んでいるように。

今まで、私は命の大切さについて述べてきました。しかしこれはほんの一部にすぎません。まだまだ数えきれない程あります。

これらのことは、一度に解決しようとしても無理です。しかし少しずつでも、なくすように努力すれば、できることなのだと私は、思います。いえできます。今、私が一番望んでいることは、この学校からいじめをなくすことです。私は、みんながうわべだけの友達ではなくて、心の底から、信じあえる友達を持つことによってなくなるのではないかと思います。たしかにむずかしいかもしれませんが、でも、一人一人が、そういう心を持つことによって、いじめがなくなり、それに繋がらる自殺、殺人もなくなるのではないのでしょうか。みなさんも少しでいいからこのことを考えてみてはどうでしょうか。

俳句

三年

夏の夜雨ふりつづく旅の宿

浜田 卓也

春雨やささやきながらバスをうつ

松見 智恵子

大海に沈む夕日は眩しけり

石黒 陽

夕映えの残雪のこる岩手山

福原 信洋

新緑の中で走るや馬羊^{うまひつじ}

湊 真希子

葉桜と歴史重なる中尊寺

辻屋 亜紀子

緑陰に雨のにおいが伝う道

坂口 菊恵

田老から眺望できる夏の海

尾見 由佳利

若緑色あざやかな雨の中

山口 武治

志戸平皆のかん声夏の宿

鶴谷 聡

春雨や旅の世界の旅の夢

林 義貢

やまぶきが水面にうつるげいびかな

中村 慶昭

晩春の泉流れる龍泉洞

紫田 透

春の野に馬羊^{うまひつじ}見ゆ旅の道

高橋 真一

岩肌と万緑映える砂鉄川

斉藤 政孝

清流にそつとさいてる水ばしょう

三好 哲生

朝風^{あさかぜ}に緑が映えるグリーンピア

星川 創悦

みちのくの夏の夜にまうししおどり

野又 祐幸

せせらぎに若葉の映える貌鼻溪^{けはなせき}

田村 志織

朝霧にかすみ飛び交うつばめたち

筒井 晶子

短歌

二年

塾終えてほてりしほほに心地よし霧深き中自転車をごく
小原 浩

さわやかな空に向かつてのびのびと背くらべするひまわりの花
表 静子

小さき子の小さき手あと窓にあり窓をふく我が手しばし止まれる
坂本 玲美

帰り道友と別れて歩く時静けさの中夕焼け染まる
盛合 聖子

春風に吹かれて走るランナーはみなさわやかな若人の顔
井川 寛

春風がさやさや過ぎる木洩れ陽の陰でまどろみ夢をみる午後
西里 泉

太陽の照りつける中走り抜き光る汗ふきゴールへと行く
藤村 由紀子

時計を見母の帰りを待ちわびる窓の外には真紅な夕焼け
船越 聡枝

五稜郭桜の花は風に散り小道はピンクにきれいに染まる
千葉 康弘

しとしとと続く長雨に映えるのは紫色のかきつばたかな
村山 早苗

春の風冷めたく肌にしみる時ゴールは近し歯をくいしる
高田 大海

太陽の微笑うけて芝光り馬の鬃志は燃えゆくまに
藤田 成一

荒れはてた砂の地獄の干ばつ地飢えた難民さまようばかり
原田 健次

ふと気づく祖母の頭の白い毛が前にも増して黒にまじりおり
石田 己代子

年老いた祖母の手をひき散歩した若草萌える春の小道よ
福沢 志穂

くもり空顔のぞかせる太陽はくも瞳に微笑みかせる
吉田 陽一

川柳

一年

よろしくとゆつくり昇る初日の出
畔柳 淳一

浜田 智子

兄受験 明日はわが身と頑張ろう

豊山 竜史

ファミコンに踊らされてる現代っ子

筆村 香奈恵

どこからか聞こえる第九 暮れ知らせ

林 祐介

紅白は横文字ばかり目立ってる

橋本 佳奈

大晦日 蕎麦^{そば}を食べ食べしめくくる

横山 学

天皇の崩御をいたむ人の群れ

丸井 昭弘

寒い日は家族みんなが居間にいる

伊奈 明子

来ぬ手紙 郵便受けて待ちぶせる

原田 明弥

参観日 授業態度がバカにいい

山中 綾香

宿題に追われ追われて休み明け

梅田 奈歩

長電話 横目でジロリお父上

テスト終え開放された笑い顔
菅原 静香

五十嵐 広祥

いつの日か目標達成してやるぞ

小川 貴子

連絡船 津軽の海に消えていく

松尾 恵

初詣 十円入れて百願う

小川 浩史

リクルート政治家ばかり得をする

田中 彰祐

お年玉 だちょうのように逃げていく

高田 由佳

幸せとつぶやく人は暖かい

紫田 篤

リクルート疑惑の謎^謎はいつ解ける

保田 美和

CDにすべて使ったお年玉

堀江 裕之

消費税 うまい話はある

田森 利津子

校則に反抗するのも青春か

佐藤 志穂

毎日のニュース悲しい事の多過ぎる

ダイエットやってみたって変りない
村井 十母

田中 辰佳

冬休み 平成の空に春を見る

林 周平

平成は世界の人が期待する

宮腰 彰子

どんど焼きしみる煙で身をきよめ

太田 菊枝

冬休み 寒さこらえて部活動

榊田 絵美子

隠^{かく}してた答案でてくる大掃除

福原 正直

友達と答え合わせて悲鳴あげ

星 稔

コスモス摘んで議員を止めていく

紫田 麻衣子

花菫^{つばき}の春はまだまだ遠い空

工藤 貴子

気がつけば残り少ない一年生

丸山 裕子

学び舎に校歌流れて卒業す

.....

佐々木 一夫

三	木	村	辰	橋	山	高	武	増
河	村	井	宮	詰	岸	橋	田	川
和		貞		尤	岩	一	蓉	四
宏	達	夫	稔	子	夫	也	子	郎

上田 陽子

沢部ハルエ	熊谷トシ	近江谷千春	小林勇	稲葉陽子	泉郁子	齋藤直美	吉田美奈子	古館勉	吉田孜	田村順子	大坂邦子	国田礼子	山本忠行	松山元彦
-------	------	-------	-----	------	-----	------	-------	-----	-----	------	------	------	------	------

編集後記

皆さん、今年の「五稜」はいかがだったでしょうか。今年は中味も大幅に変わりより充実したものに仕上がったと思います。編集するにあたり今回は中味の心機一転ということで多少の不安がありました。新・旧総務や編集委員の方々が各自の仕事を持って成しとげてくれたので、不安とは反対にとてもスムーズに仕事を行う事ができました。この一冊は今までは一味違った出来映えですが、今までの「五稜」の中では最高のものだと思います。

さて三年生はもう卒業ですが、この本を五稜中学校での良き思い出として役立ててくれれば光栄に思います。それから一、二年生の諸君には、来年はもう一段深みのある「五稜」を製作してほしいと思っています。最後に今まで御指導くださった先生方や、活躍してくれた編集委員の方々に厚く感謝し、これを編集後記したいと思います。

(編集委員長 齊藤 裕久)



編集委員

三年

齊藤裕人	菅原志	高橋秀司	山形一成	林義貢	厚谷理香	増川智美	岡山治子	辻屋亜紀子	山形重雄	佐藤充彦	藤田成一
中村之紀	小松宏嘉	立花真紀	酒田己代子	石橋里香	高平洋子	栗山大輔	三井美由紀	酒井洋	願問	上田陽子	高橋一也

二年

表紙作品	三年 林 義貢
巻頭詩カット	三年 紺井 かず紀
表紙構成	吉田 安 宏 先生
グラビア	辰宮 稔 先生
毛筆	山岸 岩 夫 先生

五 稜 第28号

平成元年 3 月 1 日 印刷

平成元年 3 月 15 日 発行

編集発行

函館市立五稜中学校生徒会

印刷

函館市海岸町 8 - 11

(有)三和印刷 ☎45-0845

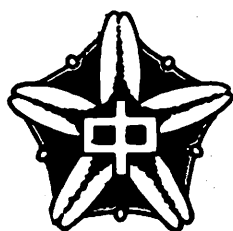
五稜中学校校歌

小島 昌平 作詩

酒井 武雄 作曲



一、ひんがしに 古城いだきて
たたなわる 五稜が丘は
若人の 息吹きに満ちぬ
みなみ ふるきをたずね
水上に 光に立ちて
新しき 力伸ばさん
おおいなる しるしと仰ぎ
二、さくら花 堅く結びて
友がきの 自主の鐘の音
うち鳴らす まことを窮め
ひとすじに 理想の姿
築きゆく われら榮えあれ
ああ とわに



函館市立五稜中学校生徒会